

しなやかに ともに いきる

京都商工会議所
創立140周年



1882 ▶ 2022

京都の「活きた知恵」を
今日の「生きるちから」にかえて
しなやかに、ともに、明日をつくります



しなやかに ともに いきる

VIVID KYOTO

京都商工会議所

ロゴマークは、VIVIDの頭文字の「V」をモチーフとした、世界に向かって吹く風になびく様子が躍動的にデザインされています。3つの色はそれぞれ、個性豊かな“企業”が脈々と息づく様子を川の流れとして表した「水色」、その上に芽吹く若い“ひと”がしなやかに変化する様子を新緑に重ねた「黄緑色」、そして、京都の“まち”が有する伝統や文化が交流によって花開く様子を「京紫」でイメージしています。



しなやかに ともに いきる

京都商工会議所 創立140周年 記念誌

Contents

ご挨拶「創立140周年に寄せて」	02
創立140周年記念式典宣言	03
祝辞	04
京都商工会議所10年の軌跡	06
コラム 文化庁長官 都倉俊一	17
記念座談会「明日をつくる 未来につなぐ」	18
コラム 京都精華大学 全学研究機構長 ウスビ・サコ	25
役員・議員メッセージ「これからの10年に向けて」	26
コラム 華道家／写真家 池坊専宗	37
創立140周年記念行事	38
京都商工会議所の組織	44
部会・委員会の変遷	45
歴代会頭紹介	46
あとがき	47

ご挨拶

創立140周年に寄せて

京都商工会議所 会頭 塚本 能交



京都商工会議所は本年、創立140周年を迎えました。

この節目にあたって開催しました「創立140周年記念式典」を滞りなく無事に終了いたしました。これもひとえに商工会議所関係者はもとより、国、京都府、京都市をはじめとする関係諸団体、その他多くの皆様方の温かいご支援のおかげと深く感謝いたします。特に、「アフターコロナの幕開け」として、多くの皆様にご来場いただいた「アニバーサリー交流会」は、会員企業の皆様をはじめ、関係者の皆様方に、日頃の感謝とこれからの10年を見据えた「新たな京都のスタート」を感じていただく大変意義深い機会となりました。

さて、京都商工会議所は、高本文平氏や濱岡光哲氏をはじめとする先人諸賢によって明治15年に設立されました。当時、京都のまちは皇族の東幸で人口の3分の1が減少したとも言われ、経済が沈滞し、産業は衰退の危機にありました。

本所を設立した実業家たちは、復興・改革の意欲に燃え、官民挙げての琵琶湖疏水の開削（明治23年完成）をはじめ、日本初の市街路面電車の開通や内国勸業博覧会の誘致（ともに明治28年）など、「先取の精神」で次々に大規模な事業に取り組み、京都経済は見事復興を果たしました。

今まさに我々が直面している新型コロナウイルスのパンデミックも、長い京都の歴史において、大きな危

機のひとつに数えられると思います。行動制限や外出自粛によって、需要と供給が同時に大きく減少するという、かつて経験したことのない事態に直面し、特にインバウンド需要を取り込んできた観光産業と国内外のサプライチェーンとの関係が強いものづくり産業が両輪となって発展してきた京都にとって、大きなダメージとなりました。

本所においても、会員間の交流事業をはじめ、多くの事業が中止を余儀なくされるなど、大きく活動が制約されることとなりましたが、京都企業の事業継続を最優先として、全所を挙げて経営相談・支援にあたってきました。パンデミック発生以降に対応した企業の相談件数は約14万件にのぼり、3回にわたる会員企業へのワクチン接種の実施や、医療従事者の方への継続的な支援活動など、事業者の皆様への身近な存在として、また事業者による組織として、本所にてできることを全力で取り組んできました。

我が国は、令和4年上半期において、GDPをコロナ禍前の水準にまで戻し、コロナ・ショックから少しずつ立ち直りつつあるものの、資源価格の高騰や円安の急伸などによるコストアップが企業経営を直撃しており、世界経済における日本のプレゼンスの低下に拍車をかけています。このように次の10年の道りは平坦とは言えませんが、千年以上の歴史を受け継ぐ文化都市として、また最先端の技術を生み出す産業都市として、京都は日本経済の再成長へ向けたイン

スピレーションを与えることができる存在になるべきと考えております。

その方策のひとつが、「起業家の育成」です。本年、京都経済の未来を担う若手起業家やスタートアップ企業等の発掘・育成に向けた「京都・知恵アントレ大賞」を創設し、「創立140周年記念式典」において、第1回の表彰式を行いました。本所の創成期に会頭を務めた濱岡光哲氏は30歳の若さで、本所創設の発起人となりました。こうした若い世代の活躍に大きな期待を寄せ、世界に通用する起業家を輩出するプロジェクトへと発展させていきたいと考えています。

もうひとつが、「文化と経済の好循環の創出」です。文化庁の誘致活動を成功させ、いよいよ明治以来の中央省庁の移転が迫っています。コロナ禍を経て、精神的な豊かさを重視する傾向が世界的に強まる中で、文化を活かした顧客創造を促進することで、観光産業や伝統産業の活性化を図り、文化庁移転の目的である「地方創生」につなげることができると考えております。

京都には、個性豊かな人や企業が集積し、互いの個性を認め合う風土があります。こうした風土の中で、京都の人々は切磋琢磨し、今に生きる知恵を育んできました。また、そうした環境を望む者を受け入れることで、「常に新しいまち」として、世界の人々を惹きつけてきた歴史があります。

京都商工会議所は、個性豊かな人や企業が、生き生きと躍動し、しなやかに共存し高め合うことが、京都経済を発展させる原動力になるという想いのもと、2020年より「VIVID KYOTO しなやかに ともにいきる」をテーマに活動を展開して参りました。この考えは、^{フューカ}VUCA（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性）と呼ばれる先行き不透明な時代において、一層真価を発揮するものと思います。今後も、多様性のあふれる生き生きした京都を目指して、より一層信頼され、必要とされる「京商」を築いていきたいと存じますので、さらなるご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本所の運営に格別のご協力を賜る役員・議員ならびに会員の皆様、行政機関、関係団体の皆様に対しまして、改めて深く感謝申し上げます、挨拶といたします。

京都商工会議所 創立140周年 記念式典宣言



京都商工会議所は明治15年に誕生し、今年で140年を迎えます。

設立された当初の京都は都が東京へと遷り、人口の3分の1が減少し、産業の衰退に直面していました。そのような危機の中でも、当時の京都の人々は都市の復興や改革に燃え、琵琶湖疏水の建設や路面電車の開通、小学校の開校、産業の近代化にも取り組み、日本初の先進的な取り組みを次々に打ち出し乗り越えてきたのです。それらを主導したのが京都商工会議所を設立した若い実業家たちでした。

今社会は、グローバルなビジネス環境の急速な変化や、イノベーション競争の激化、少子高齢化に伴う人手不足、デジタル化や脱炭素化など目まぐるしい変化の渦にいます。

加えて、新型コロナウイルス感染拡大の長期化、国際情勢の緊迫化など、これまで予想できなかった出来事が起こり、多くの企業が困難に直面しております。

京都商工会議所は創立140周年を契機に、ここでもう一度数々の偉業を成し遂げた先人達の先取の精神にならい、この困難を克服し、さらに進化していくことを誓い、また新しい京都の幕開けとすべく、ここに「これからの10年に向けて」宣言致します。

1 京都商工会議所は京都の産業の多様性を活かし、学術、文化、宗教、経済など異なる分野との対話や交流を活発に行い、連携・協業により新しい価値を創造し、京都企業が取り組むべき社会的課題に対しビジョンをもって取り組み、アフターコロナに向け邁進します。

2 京都商工会議所は長い歴史・伝統の中で人々が培ってきた京都の風情を大切に、文化を守り、経済との好循環を創出しながら国内外から人々が集まるイノベティブで魅力的な京都のまちを推進します。

3 京都商工会議所は様々な関係団体と連携、交流し、より一層会員、企業や地域社会に信頼され、必要とされる地域総合経済団体を目指します。

※ 2022年9月28日 記念式典にて発表

祝 辞

京都商工会議所が創立140周年を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

京都商工会議所は、明治15年に産声を上げられ、近代日本の産業革命の進展とともに、京都経済を力強く牽引されて今日を迎えられました。塚本会頭をはじめ、歴代会頭の皆様方、会員企業の皆様方によるこれまでの取組に、深く敬意を表します。

現在、我々は、新型コロナ、ウクライナ、気候変動の3つの危機への同時対応が求められる厳しい局面の中にあります。こうした危機を乗り越え、強靱で柔軟な経済を構築し、経済を成長軌道に乗せていくためには、先手を打って未来の成長の種を蒔き、イノベーションに果敢に挑戦していく必要があります。

京都には、文化や伝統を守り抜くと同時に、新たな革新・イノベーションが芽生える風土があります。この地から、貴商工会議所の会員企業でもあるオムロンやワコール等の日本を代表する企業が数多く生まれています。オムロンでは1967年に世界初の自動改札機を開発され、ワコールでは1964年から人間工学に基づいた日本女性の体型計測と研究を本格的にスタートさせました。この地から世界に飛び立ち、たゆまぬイノベーションの積み重ねにより成長を続け、今日の地位を築かれたものと認識しています。次々と新たなイノベーションを生み出す京都の地において、「3つの危機」のさなかにあっても、商工会議所の皆様が、地域の基盤である中小企業・小規模事業者を先導し、地域、そして、日本を牽引する企業を育てていく役割を果たしていられることと確信しています。

京都商工会議所においては、「しなやかに ともに いきる」をコンセプトに、経営安定や成長発展を目指す中小企業を支援されてきました。経済を巡る状況が複雑化している今こそ、皆様が連綿と紡いできた「知恵」が、その真価を発揮するときであり、京都1200年の伝統の中で磨かれた知見を踏まえ、未来を力強く切り開かれることを期待しています。

最後になりますが、京都商工会議所の更なる御発展と、関係者の皆様の御健勝を祈念いたしまして、私からの祝辞とさせていただきます。



経済産業大臣
西村 康稔



京都府知事
西脇 隆俊

京都商工会議所が、創立140周年の記念すべき節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

明治15年、東京遷都により衰退の危機にあった京都経済の立て直しを図るべく設立された京都商工会議所は、幅広い業種の連携で幾多の経済危機を乗り越え、京都の商工業振興や経済社会の発展に大きな役割を果たしてこられました。

140年という長きに渡る激動の歴史の中、地域の総合経済団体として中小企業を牽引し、商工業者の絆を深められてきたことは、塚本会頭をはじめ、歴代会頭並びに役員の方々の皆様方のたゆまぬ御尽力の賜物であり、心から敬意を表します。

京都の産業はこれまで、様々な業界、時には行政も含めて多くの方が交流しイノベーションを起こすことで難局を乗り越えてきました。伝統技術の継承、業種の垣根を越えた新技術の創出はもちろんです、皆様に脈々と受け継がれてきた進取の精神こそ、京都の成長を支えたものであり、また今後の発展の原動力になるものであります。

京都府といたしましても、京都商工会議所や関係機関の皆様との連携を一層強化するとともに、あらゆる施策を総動員し、夢と希望を実現できる未来の京都づくりをオール京都で進めて参りますので、引き続きの御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、京都商工会議所並びに会員の皆様方、創立140周年を契機として、ますます御発展されますことを心から祈念いたします。

明治15年の御創立以来、京都商工会議所は、京都における地域総合経済団体として多彩な事業を御展開され、長い歴史の中で生まれた伝統産業はじめ京都ならではの知恵を基盤に、京都の商工業やまちの発展に大きな役割を果たしてこられました。その貴い歩みが、創立140周年の節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

また近年では、京都市・府や関係団体等の皆様と共に、文化庁の京都移転や「京都経済百年の計」京都経済センターの整備にも御尽力されました。現下のコロナ禍の非常に厳しい状況においても、会員企業の皆様の事業継続や新たな挑戦を支援されるなど、京都経済の再生と新たな成長に向け、多大な御貢献を賜っております。塚本会頭はじめ歴代会頭並びに役職員、会員の皆様に、改めて深く敬意を表します。

本市といたしましても、コロナ禍はじめあらゆる危機を必ずや乗り越え、「京都ならではの改革と成長」をしっかりと推進してまいります。そして、貴所との強固な連携の下、オール京都で市民の皆様が豊かさを実感できるまちの実現、京都経済の更なる発展のために全力を尽くす決意です。変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、京都商工会議所が、この度の節目を契機に「これからの10年に向けて」挑戦を続けられますこと、並びに塚本会頭をはじめ会員の皆様の一層の御活躍を心から祈念いたします。



京都市長
門川 大作



日本商工会議所会頭
三村 明夫

京都商工会議所が創立140周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。明治15年の創立以来、常に地域のリーダーとして、商工業の振興や地域経済社会の発展に大きく貢献されてこられました。これも偏に、歴代、そして現在の役員、議員、会員の皆様の弛まぬご尽力の賜物と存じ、深く敬意を表します。

さて、長引くコロナ禍や物価高騰等が日本経済に大きな影響を与えています。他方、中小企業経営を取り巻く諸課題への対応は、見方を変えれば、「デフレマインド」や「コロナマインド」から脱却し、「成長マインド」を取り戻す好機でもあります。停滞から変革への大転換期を迎えている今こそ、企業経営者も安定から成長志向へと切り替えることが求められており、そのためには、企業も、商工会議所も、こうした大きな環境変化に対応し、覚悟をもって自己変革に挑戦していかなければなりません。

京都商工会議所では、2019年に経済団体等が集結する中小企業の総合支援拠点である「京都経済センター」をオープンされ、その中核を担ってこられました。また、「VIVID KYOTO しなやかに ともに いきる」をスローガンに掲げ、この間、行政、関係団体にも連携の輪を広げ、会員企業はもとより、多くの事業者や地域経済の振興に尽力されてこられました。さらなる発展に向けて、今後、大きな役割を果たされますことを期待しています。

京都商工会議所におかれましては、創立140周年を新たな出発点として塚本会頭を中心により一層結束を深められ、さらに豊かで活力ある地域が創造されますことを祈念いたします。

2013 ▶ 2022

京都商工会議所 10年の軌跡



平成25年度 2013

4月

- 京都・会津若松商工会議所「相互交流Year」推進協定事業
(女性会による交流、東北六魂祭・会津若松ツアー、役員議員の交流、京都・会津若松絆交流展、相互交流 Year クロージングミーティング)



10月

- がんばる経営 応援専門家 ネットワーク創設
- 12年ぶりに 12,000会員突破

11月

- 知恵ビジネスメッセーKyoto Millennium Showcase—を初開催。パリや上海での海外販路開拓事業を実施
- 立石会頭3期目スタート・「ニュー京商ビジョンサードステージ」策定



「知恵の連鎖」をコンセプトとしたビジョンを発表した。

2014年

5月

- 京都の未来を考える懇話会「京都ビジョン2040」発表



行政、産業、大学、文化芸術、メディアのトップで30年後を議論し提言を取りまとめた。



9月

- 台風18号に伴う緊急相談窓口設置



桂川が氾濫し嵐山渡月橋付近で浸水被害。本所職員も復旧作業に協力した。

12月

- 関西6商工会議所による中国旅行者招聘事業

2月

- ミャンマー ビジネスミッション 2013の派遣



世界の動向

- 6月 米NSAの情報収集を暴露「スノーデン事件」
- 7月 エジプト政変

日本の動向

- 4月 第2次安倍政権の経済政策“アベノミクス”始動
- 6月 「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」が世界文化遺産に登録決定
- 7月 日本が環太平洋パートナーシップ(TPP)協定交渉に参加
- 9月 2020年夏季五輪・パラリンピック、東京開催決定
- 12月 訪日外国人1,000万人を達成
- 2月 フィギュアスケート・羽生結弦選手 ソチ五輪で日本男子初の金メダル

京都の動向

- 4月 京都第二外環状道路(沓掛IC—大山崎JCT・IC)開通
- 12月 「和食」無形文化遺産に登録

4月

- 会員交流充実プロジェクトの始動



6月

- 女性会 創立30周年記念式典



全国の女性経営者が参加し、記念講演、祝賀会を開催した。

2月

- 知恵ビジネスメッセ Next Kyoto Selection



知恵ビジネス関連企業55社が一堂に会する総合展示商談会を初めて東京で開催した。

2015年

5月

- 第3期「京商・環境行動計画」策定
- 「梅小路公園周辺の賑わい整備促進についての要望」を京都市とJR 西日本に提出

8月

- インドネシア 経済視察団の派遣



7月

- 琳派400年記念事業「京都美風シンポジウム」



3月

- 新入会員ビジネス交流会



世界の動向

- 4月 韓国旅客船「セウォル号」沈没
- 9月 香港反政府デモ「雨傘運動」
- 1月 ギリシャ金融危機

日本の動向

- 4月 消費税率 5%から8%へ
- 9月 御嶽山噴火
- 12月 赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏がノーベル物理学賞を受賞
- 3月 北陸新幹線 東京-金沢間 開業

京都の動向

- 7月 祇園祭山鉦巡行「先祭」「後祭」分離実施・大船鉦復興
- 9月 平等院鳳凰堂「平成の大修理」完了
- 1月 JETRO 京都貿易情報センター開所

平成27年度 2015

4月

- 会員感謝デー



会員企業の関係者を対象に、文化芸術に触れていただくイベントを嵐山で行った。

6月

- 会頭ミッション
「ミラノ・フィレンツェ・クラブ視察団」の派遣



8月

- 事前マッチング型マンスリー商談会
- 新入会員オリエンテーション初開催



新入会員に本所概要やサービスを知っていただくことを目的にオリエンテーションを開催した。

2016年

5月

- 輝く女性応援京商会議の設置



キックオフ事業として「女性が輝く企業シンポジウム」を開催した。

2月

- フィリピン経済視察団の派遣

11月

- 京都知恵産業フェア2015（東京）



7月

- 平成30年完成を目指し、関係6団体京都経済センター建設構想合意

世界の動向

- 5月 ミラノ国際博覧会
- 11月 COP21パリ協定採択
パリ同時多発テロ

日本の動向

- 9月 安全保障関連法が成立
- 10月 大村智氏がノーベル生理学・医学賞、
梶田隆章氏がノーベル物理学賞を受賞
- 1月 マイナンバー制度開始
- 2月 初のマイナス金利政策スタート

京都の動向

- 7月 京都縦貫道全線開通
- 10月 国連記憶遺産に「舞鶴引き揚げ資料
と東寺百合文書」登録決定
四条通歩道拡幅事業完了
- 1月 ロームシアター京都開館
- 3月 文化庁京都移転決定

平成28年度 2016

7月

- 京都経済センター整備計画発表
- 全国商工会議所観光振興大会2016in京都



「2020年オリンピック・パラリンピック開催に向けた交流文化・観光の創造」をテーマに、日本商工会議所と共催で開催した。

2月

- シンガポール・マレーシア経済視察団の派遣

11月

- 立石会頭4期目「京商ビジョンNEXT」策定



「知恵の集積」をコンセプトとしたビジョンを発表した。

6月

- 熊本地震被災地に経営支援員を派遣

2017年

4月

- 機構改革「創業・事業承継推進室」・「経済センタープロジェクト」設置

1月

- 知恵キラリ 京の中小企業会社説明会



京都で学ぶ若者に地元中小企業の魅力をPRした。

3月

- 京都経済センター起工式



10月

- 創業全力応援フォーラム



起業成功者による経験談を交え、創業への機運醸成を図った。

世界の動向

- 8月 リオデジャネイロ五輪開幕
- 1月 米国トランプ大統領就任
- 2月 マレーシアの空港で金正男氏暗殺

日本の動向

- 4月 熊本地震
- 5月 伊勢志摩サミット
終了後オバマ米大統領広島訪問
- 6月 改正公職選挙法施行
選挙権年齢を18歳に引き下げ
- 8月 天皇陛下生前退位のご意向示唆
- 10月 大隅良典氏がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 12月 出生数初の100万人割れ

京都の動向

- 4月 京都鉄道博物館開業
- 10月 「京都文化カプロジェクト2016-2020」
キックオフ事業「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」開催
- 12月 北陸新幹線 小浜-京都ルート決定

6月

- 京商インターンシップ
コンシェルジュ事業



会員企業の魅力発信や学生とのマッチングを目的に実施した。

9月

- 伝統工芸産業NEXTサロン



伝統工芸産業に携わる若手経営者、職人を対象にこれからのモノづくりについて考える催しを開催した。

2月

- タイ・ラオス経済視察団の派遣



11月

- 民泊条例の整備及び宿泊税の導入に関し「京都の特性を踏まえた観光政策の推進についての要望」を京都市に提出

2018年

7月

- 海外の観光客の消費行動等を学ぶ
京商インバウンド対策ミーティングの開催
(7月・12月)

10月

- 会頭ミッション「キューバ・カナダ視察団」の派遣



12月

- 京都・観光文化検定試験
G-1グランプリ創設

3級を団体受験したグループ内の上位3名の合計点を競うG-1グランプリに多くの企業が参加した。



3月

- 京津奈広域文化観光連携事業
「京津奈・古の三都めぐり」

世界の動向

- 5月 韓国文在寅大統領就任
- 7月 香港民主派大規模デモ
- 8月 北朝鮮中距離弾道ミサイル連日の発射
- 2月 平昌冬季オリンピック・パラリンピック

日本の動向

- 6月 藤井聡太棋士 歴代最多29連勝達成
- 7月 沖ノ島が世界自然遺産に登録決定 九州北部豪雨
- 9月 陸上100m桐生祥秀選手 9秒台の日本記録を樹立

京都の動向

- 4月 文化庁地域文化創生本部設置 新名神高速道路 城陽―八幡京田辺間 開通
- 12月 京都議定書誕生20周年記念 「地球環境京都会議2017(KYOTO+20)」開催

8月

- 「文化庁への支援のあり方検討会」設置

12月

- 京都商工会議所ビル閉館記念事業
 (「明治150年京商のキセキ展」「会議所ビル探訪ツアー」)



昭和39年に竣工の日本所ビルは、平成31年3月に55年の歴史に幕を閉じた。

1月

- ベトナム (ハノイ・ダナン) 経済視察団



10月

- 台風21号被災事業所の復興支援

2019年

9月

- きものサミット in 京都2018

6月

- 会頭ミッション「スイス・フランス視察団」派遣



本所とパリ=イル・ド・フランス地方商工会議所友好協定締結30周年記念事業として、会頭ミッションとパリでの商談会(知恵ビジネスメッセ in パリ)を実施した。

11月

- 「(一社)京都知恵産業創造の森」発足



3月

- 京都商工会議所 移転開業・京都経済センターグランドオープン



- 日商「きらり輝き観光振興大賞」受賞
 (本所・大津商工会議所)



「琵琶湖疏水など産業遺産や文化財の活用による新たな観光資源の開発～琵琶湖疏水船復活事業～」が受賞した。

世界の動向

- 9月 テニス・大坂なおみ選手 全米オープン優勝
- 12月 TPP11協定発効
- 1月 香港で学生らが大規模デモ
- 3月 野球・イチロー選手 引退

日本の動向

- 6月 働き方改革関連法が成立
大阪北部地震
- 10月 本庶佑氏がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 11月 日産カルロス・ゴーン会長逮捕

京都の動向

- 4月 京都府知事に西脇隆俊氏就任
- 6月 民泊新法が施行
京都市・パリ市友情盟約締結60周年
- 10月 京都市が宿泊税導入
- 3月 JR「梅小路京都西駅」開業
琵琶湖疏水通船復活

4月

- 「京都ブランド海外展開助成金」
JETRO京都と連携

9月

- 「京都・くらしの文化×知恵産業展」
国際博物館会議 (ICOM)
京都大会の関連事業



京都の伝統産業にフォーカスし、新たなビジネスマーケットの創造を図るイベントとして3日間かけて実施した。

11月

- 立石会頭5期目
「京商ビジョンFUTURE」策定



「京商知恵基金」創設について記者発表を行った。

1月

- 第1回観光振興クロスセミナー
- 新型コロナウイルスに関する
経営相談窓口の開設



感染拡大を受けて、窓口を設置。土日にも受付時間を拡大し、中小企業の経営安定や事業継続の支援を強化した。

2020年

5月

- 知恵ビジネスの事例に学ぶ
「知恵産業の森サロン」初開催

10月

- 1号議員選挙



1号議員選挙で27年ぶりとなる投票を実施した。

12月

- 京都検定準1級認定制度創設

2月

- インド (デリー・ハイデラバード) 経済視察団



3月

- 「新型コロナウイルス感染症の京都経済への悪影響を最小限に食い止めるための緊急要望」
(厚生労働大臣、経済産業大臣、国土交通大臣に提出)

世界の動向

- 4月 ノートルダム大聖堂で大火災
- 1月 中国・武漢で新型肺炎発生
英国EU離脱

日本の動向

- 5月 天皇陛下が即位 (令和に改元)
- 8月 ゴルフ・渋野日向子選手 メジャー初出場・初優勝
世界初、iPS細胞を用いた角膜移植に成功
- 9月 ラグビーW杯日本大会開幕・日本8強
- 10月 消費税率10%適用開始
- 12月 吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞
訪日外国人3,000万人を突破

京都の動向

- 7月 京都アニメーション
放火殺人事件
- 2月 サンガスタジアム
by KYOCERA本格開業

4月

- 塚本能交・第17代会頭を選任



「知恵産業のまち・京都」を継承・発展させ、世界へむけた京都ブランドの推進に取り組むことを表明した。

- ウィズコロナに対応した会員企業の情報を発信する「京商支縁サイト」オープン
- 中小企業等新型コロナウイルス対策緊急支援補助金等の申請支援

11月

- 青年部創立30周年



青年部創立30周年を記念し式典を開催。会頭と会長による特別対談を実施した。

- 新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きい3部会から京都府・京都市への要望
- 会員飲食店応援プロジェクト「ちよこっと幸せキャンペーン」

3月

- 知恵-1グランプリ (知恵ビジネスプランコンテストをリニューアル)



強みを活かし、新たな知恵によって独自の技術や商品・サービス、ビジネスモデルを開発し、“顧客創造”を実現するビジネスプランを認定した。

2021年

7月

- 京都・知恵アントレプレナー支援プログラム (K-CAP) 始動・京商イブニングピッチ



京都経済の未来を担う若手起業家や地域発ベンチャー、スタートアップ等を集中的に支援する K-CAP を立ち上げた。

9月

- 京都府立大学との包括連携協定締結

8月

- 京都経済人会議 (京商政策フォーラムをリニューアル)



本所役員・議員に加え、経済4団体の役員ら参加のもと名称を変更後、初めて開催した。

1月

- 経済4団体年賀交歓会や、定例会員講演会をはじめ会員向け事業にもオンライン配信を導入



世界の動向

- 5月 米国で民間初の有人宇宙船打ち上げ
- 1月 米国バイデン大統領就任
- 2月 ミャンマーでクーデター

日本の動向

- 4月 新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発令
「Go To トラベル」キャンペーン開始
- 7月 レジ袋有料化の開始
- 9月 菅義偉氏 総理大臣就任
- 11月 秋篠宮文仁親王「立皇嗣の礼」
劇場版「鬼滅の刃」無限列車編が興行歴代1位
- 1月 医療従事者向けワクチン接種開始
- 3月 五輪聖火リレー福島でスタート

京都の動向

- 7月 大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアムがスタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市に選定
- 1月 亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例施行
- 3月 京都コンgres (国連犯罪防止刑事司法会議) 開催 (ハイブリッド方式)

4月

- 京都府事業承継・引継ぎ支援センター設置
- 未来につなぐオンライン工房ツアー



京提灯、漆等の伝統産業を取り上げ、オンラインを活用した工房ツアーを年間を通して展開した。

7月

- 京都検定3級試験 7月開催開始



10月

- 立石義雄前会頭お別れの会
- 「大阪・関西万博」京都支援協議会を設置

3月

- 小学生への環境学習事業が開始20年に



永年にわたりご協力いただいていた企業の皆様への表彰を執り行った。

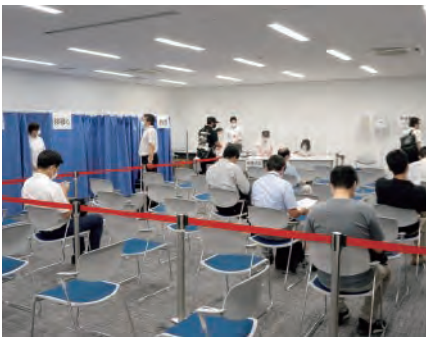
2022年

6月

- 「京商・環境アクションプラン」策定

8月

- 新型コロナウイルスワクチン職域接種
会員限定コロナウイルス抗原検査キット販売、医療従事者への支援



本所会員事業所の従業員を対象に、京都市と連携し「職域接種」を実施したほか、抗原検査キットの販売を行った。



懸命に治療にあたる医療従事者の方へ支援品を送った。

2月

- 洛西ビジネスサポートデスクが移転

11月

- 京都創造者大賞 2021授賞式

世界の動向

- 10月 ドバイ国際博覧会開幕
- 11月 スーパーコンピューター「富岳」が、世界初の4期連続・4部門で1位
- 1月 RCEP協定(地域的な包括的経済連携協定)発効
- 2月 北京冬季オリンピック・パラリンピック
ロシアがウクライナに侵攻

日本の動向

- 4月 ゴルフ・松山英樹選手 マスターズ優勝
日本人初のメジャー制覇
- 6月 東京オリンピック・パラリンピック
- 10月 岸田文雄氏 総理大臣就任
眞鍋淑郎氏がノーベル物理学賞を受賞
- 11月 新型コロナウイルス オミクロン株国内初確認

京都の動向

- 11月 京都サンガF.C.がJ1復帰
- 12月 「京都・花灯路事業」終了

4月

- 文化と産業の交流拠点
(旧富岡鉄斎邸) 整備計画発表
- 京都観光再興に向けた3部会
共同宣言発表
(小売商業部会 食品・名産部会 観光・運輸部会)

7月

- 京都検定開始20回に
- 「2025年大阪・関西万博の成功に向けた
京都企業の参加を促進する環境づくりに
関する要望」を日本国際博覧会協定へ提出
- 「京都・知恵アントレ大賞2022」決定



オール京都体制で、京都経済の未来を担う起業家を発掘、選定した。

9月

- ファッションカンタータ from KYOTO



3年ぶりの開催。上品で雅やかな和装文化を表現するステージを展開した。

- 本所創立140周年記念式典・
アニバーサリー交流会

2023年

10月

- 10月9日、1882 (明治15) 年の
設立から140年を迎えた。

6月

- 200回目となる「経営経済動向調査」を実施
- 一般財団法人今日庵と連携・協力協定締結



茶道文化の振興に向けて協定を締結した。

11月

- 塚本会頭2期目始動



地域経済が自立的に活力を増進する好循環を生み出すことを目的に、「VIVID KYOTO セカンドステージ」を発表した。

世界の動向

- 7月 香港返還から25年
- 8月 野球・大谷翔平選手 104年ぶりに同一シーズン
での「2ケタ勝利&2ケタ本塁打」達成
- 9月 日中国交正常化50周年
英国エリザベス女王ご逝去・チャールズ新国王即位
- 11月 世界人口80億人到達

日本の動向

- 5月 IPEF (インド太平洋経済枠組み) に
参加表明
沖縄復帰50年
- 7月 安倍晋三元首相銃撃事件
- 10月 円相場32年ぶりに1ドル150円台に

京都の動向

- 7月 祇園祭3年ぶり山鉾巡行
鷹山復興
- 10月 時代祭3年ぶりに開催

日本の文化芸術を 「京都」から世界へ発信！

文化庁長官 都倉 俊一



京都は日本文化のふるさと。そこに文化庁を置くことは、世界に日本の文化芸術を発信する上で大きな意味があります。

かつて日本の文化芸術が、世界的な見地で産業として成立したことはなかったのではないのでしょうか。文化芸術は崇高で、お金とやりとりすべきではないという考えが根強くあったように思います。ですが文化芸術立国をめざすからには、産業として成立させ、グローバルに輸出する必要があります。日本が培ってきた文化の蓄積は付加価値の宝庫ですから、これらを積極的に打ち出すことで、ポストコロナでは日本を訪れた海外の方にリピーターになってもらい、世界が日本文化を買い求める好循環を作っていきたいです。

そのために、まずは日本に住む我々が日本文化の豊かさを認識することが重要です。祭ひとつ例にとっても、踊りや音楽、衣装といったさまざまな伝統が、その地方で大切に受け継がれ、培われてきました。文化庁では日本遺産の認定を通じて、日本各地の伝統や文化

を再認識してもらえるような取り組みを支援しています。また、「文化財の匠プロジェクト」を通じて、伝統文化の担い手である職人を支え、後継者問題に取り組んでいます。精巧で緻密な熟練の技を世界に知らしめるには、文化財の補修・維持・継承の体制構築が不可欠だからです。

2025年の大阪・関西万博に向けた「日本博2.0」のテーマは「WABI」。なかなか英語では説明し難い言葉ですが、万博を機に日本の慎み深い文化というものが海外に伝わればと願っています。

京都には衣・食・住に加え、マンガやアニメなど実にさまざまな産業があります。また、数多くのアーティストを輩出した地でもあります。文化芸術の産業化はアーティストの力だけでは実現できませんから、インフラ整備などの面で、京都商工会議所のお力をお借りしたいと思っています。経済界の皆様、ぜひ共に日本の文化を京都から世界に発信してまいります。

プロフィール／東京生まれ。作曲家。父が外交官で、ドイツで音楽の基礎を学ぶ。山口百恵、ピンク・レディー等の楽曲を担当。日本の音楽界を牽引、海外にも活動を広げる。2010年日本音楽著作権協会会長。2011年文部科学省文化審議会委員。2018年文化功労者。2021年4月、第23代文化庁長官に就任。

インタビュー
動画はこちら



記念座談会

明日をつくる 未来につなぐ

京都商工会議所創立140周年を記念し、
京都の過去を振り返り、未来を見据える座談会を開催した。
経済、教育、アート、そして宗教、各界の視点から
明日をつくり、未来につなぐ思いとメッセージをお届けする。



京都市立芸術大学 学長
赤松 玉女



京都商工会議所 会頭
塚本 能交



京都商工会議所 副会頭
堀場 厚



臨濟宗 妙心寺 退蔵院 副住職
松山 大耕

激動の10年を振り返る

司会 竹内 弘一（以下 **竹内**）：京都商工会議所は140年前の1882年（明治15年）に産声をあげました。都が東京へ移り、京都の人々は意気消沈しましたが、復興に向けての気運を高めた時期でもあります。それから140年、様々な出来事がありました。苦難もありましたが、時々の経営者が手を携えて京都を引っ張ってきて、現在があります。今日は創立130周年からの10年を振り返り、未来のお話もお聞きしたいと思います。

京都商工会議所 塚本 能交 会頭（以下 **塚本**）：京都商工会議所の10年間ですが、前半は立石前会頭が知恵産業を推進し、多くの中小企業のバックアップに尽力されました。また、京都経済百年の計として、「京都経済センター」がオープン。私はその流れをくみ、会頭に就任しました。新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻など予想外の出来事が多く起こった3年間。そんな中でも、京都商工会議所では、会員企業・事業者に寄り添う活動をしてきました。既存の概念にこだわらず、新たな状況にも対応しようと、商工会議所でワクチン接種や医療従事者支援等、今までにない取り組みを行いました。

竹内：新型コロナで観光業をはじめ、様々な方が痛みました。会員企業・事業者のサポートは大変だったと思います。苦しいときこそ事業者のためにという想いがあったのでしょうか。

塚本：金融機関等に御協力いただき、事業者の事業継続の支援を一生懸命頑張ってきました。ですが、売り上げがまだ戻らない状況の中、借入の返済が始まった事業者もいらっしゃいます。金融機関等とより一層の連携を図りながら今後も支援に当たっていきたいと思います。

竹内：赤松学長は教育の分野、特にアート界における京都の10年を振り返っていただけますか。

京都市立芸術大学 赤松 玉女 学長（以下 **赤松**）：芸術は時代の変化を吸収し、その時代を映し出すもの。かつて絵画や現代美術は欧米中心でしたが、この30年間ほどは、東側諸国のアーティスト、中東、アフリカ、アジア、女性……とフォーカスされてきました。本学にも多くの国と地域から学生や研究者が来られ



京都商工会議所 塚本 能交 会頭

1948年生まれ。京都府出身。(株)ワコールホールディングス社長を経て現在、名誉会長。2020年に京都商工会議所会頭に就任。

て、国際交流が進みました。またコロナの状況は、発信の方法や芸術の内容、メディアにも影響を与え様々な意味で多様化が進んだ10年でした。

竹内：松山副住職は“世界に羽ばたくお坊さん”として、この10年をどのように感じておられますか。

退蔵院 松山 大耕 副住職（以下 **松山**）：京都はインバウンドが多く、前半5年はちょっとうわついでました。そして新型コロナで目が覚めた後半でした。お寺も法事は延期、修学旅行生は来ない、拝観者は1日1人という日もあり、不要不急の塊だったとショックを受けました。しかし歴史の中でそのときしかできないことというのは常にあると思い、石庭の砂を全部手で洗うなど庭のメンテナンスをしました。自分たちのことも見直せる機会になりましたね。この2年半で何をしたかが、今後10年で効いてくると思います。

竹内：京都経済の中でも上場企業は目覚ましい成長を遂げています。しかし成長できずにもがく事業者もいます。この明暗について堀場副会頭はどう思われますか。

京都商工会議所 堀場 厚 副会頭（以下 **堀場**）：1200年の京都の歴史の中には戦争等、色々なことが



京都商工会議所 堀場 厚 副会頭

1948年生まれ。京都府出身。(株)堀場製作所社長を経て、現在、会長兼グループCEO。2010年に京都商工会議所副会頭に就任。

ありました。今のようなシビアな時代に生き延びるものは、“ほんまもん”だけ。我々のようなメーカーでは長期視点で基本的な研究開発をしっかりと継続しておく、逆境の時期にこそ成長することができる。でも、“売れるから”だけの商品・会社は自然淘汰されますね。これからの2~3年どう努力するか、京都にとっても大事な時期だと思います。

竹内: 苦しい時期に研究開発費を使うのはなかなか難しいと思うのですが。

堀場: だからこそ、有事に強い体質を作ることが必要です。それは財務面だけでなく、人や企業文化など様々な要素の蓄積が大切であると京都のDNAは知っているはず。京都は、常に新たな時代へと成長する大きな可能性を秘めたまちだと思いますね。

過去から未来へ 守り継ぐべき「京都らしさ」とは

塚本: 新型コロナはまだ収束していません。ただ、今までやってきたことを、形や方法を変えながら続けていける道が、少しずつ見えてきていますから、従来と

は違う“京都らしさ”を改めて持つ必要があります。商工会議所としても京都にお迎えする観光客の方々へ今後の京都の新たな姿をお示ししたいと思います。

竹内: 先人から受け継いだ京都の風情・雰囲気……非常に抽象的なものが京都を形作っていると思うのですが、いかがですか。

塚本: 京都の人でも簡単に説明できませんね。長い歴史の中で、狭い京都でお互いを気遣いながら共存していくために、京都人が編み出した知識や知恵こそが“京都らしさ”ではないでしょうか。

竹内: 赤松学長ご自身、京都市立芸術大学のご出身で、ずっと京都で活動されています。京都はアーティストにとってどういう場所ですか。

赤松: 京都の歴史的遺産には時代時代の最先端のものが含まれています。大切に残されてきたものがつなごうと、今の新しいものも受け入れる、懐が深いまち。また京都は、海外から日本中からアーティストが集まって切磋琢磨する、贅沢な舞台であり学ぶ場所ですね。

竹内: 松山副住職、言語化しにくいのですが、“京都らしさ”についてお話しいただけますか。

松山: 私は「言語化できないから“いい”」とも思っています。例えば、江戸の庭は芝が基本ですが、京都はコケです。これも暑い夏と寒い冬という京都の独特な自然環境が生み出したと思うのです。なので建物等を真似して作れたとしても、気候風土・人・歴史がうまく重なって生まれるものは真似できないと思いますね。

竹内: 京都生まれ京都市育ちの堀場副会頭が思う“京都らしさ”とは？

堀場: 一番の京都らしさは、商工会議所のこういう座談会で、芸術大学の学長や歴史あるお寺の僧侶といった多様な方々とお話しできる場所ではないかと思っています。それが違和感なく、ごく自然に成り立つのは凄いことです。私は京都で育ち、グローバルに仕事をしていますが、京都に誇りを持っています。言葉では言い表すことのできない“京都らしさ”に支えられて、事業をやっているんですね。だから、京都の人って自

分だけが儲けるんじゃないで、京都に返さないと「罰が当たる」と思っています。ギブ・アンド・テイクの精神こそ京都がずっと続いてきたベースじゃないでしょうか。

これからの10年に 京都はどうあるべきか

竹内: ここからは、京都が未来に向けてどういうまちになっていくべきなのか、お話をしていきたいと思えます。来年(2023年)3月に文化庁が移転されます。京都にとって非常に大きな転換期になると思えます。ただ世の中は大きく変化しています。今後の10年、京都はどうあるべきでしょうか。

塚本: まず新型コロナが収まることを考え、国内外から大勢のお客様をお迎えできるようにしなければなりません。京都の商工業者の方々と、これからのあるべき京都の姿について考え、“京都らしさ”という付加価値をつけていきたいと思っています。京都の生活の中にこそ、伝統や文化があります。しゃべり方や表現の仕方など、色々なものが京都なのです。京都の人にとっての「普通」、これが“京都らしさ”。だから無理して他の地域の方が気に入るような京風を作る必要はなく、「我々は京都人やから全てが京都らしいんや」と、自信を持つことが大事だと思います。

竹内: 今まで築いてきたものがあるから、うるたえていたらあかん、ということですね。赤松学長は、これからの10年でどんな人材を輩出したいとお考えですか。

赤松: 京都市立芸術大学には美術と音楽、2つの学部があります。どちらの学部も少人数教育や手厚



妙心寺 退蔵院 枯山水庭園「陰陽の庭」



京都市立芸術大学 赤松 玉女 学長

1959年生まれ。兵庫県出身。画家として国内外で活躍する一方で、教員として25年以上、後進の育成に尽力。2019年に理事長・学長に就任。

い指導を行って、世界に活躍できるアーティストや音楽家を育てたいのです。しかし卒業生たちは、アーティストだけでなく、実はあらゆるところで活躍しているんですね。クリエイティビティとは、真っ白の何にも無いところから、一つのものを生み出すこと。「人と同じ答えでなくていい」「人と同じことをしてたらあかん」。学生たちはそれを毎日繰り返します。だから失敗を恐れません。卒業後は自分の表現を目指してアーティストになる人もいますし、教育者になったり、芸術とは関係の無い企業に入ったりする人もいます。けどどこに行っても、大学で培ってきた「新しいものを生み出してやろう」という気概や好奇心に満ちた人が多いですから、色々な場所で本学の卒業生の活躍を聞きます。大学はアーティストを育てようと思っていたけれども、それだけでなく、社会への接続性があるユニークな人材を育てていたんだと気づきます。社会に出たときに芸術を勉強したことがアドバンテージなのだと感じてもらえる教育を、今後も続けていきたいです。

竹内: 京都市立芸術大学は移転が近づいています。今までは郊外でしたが、今度は京都駅前。街中に京芸が来ることの意義は大きそうですね。



**臨濟宗 妙心寺 退蔵院
松山 大耕 副住職**

1978年生まれ。京都府出身。東京大学大学院卒業後、2007年から現職。世界のリーダーと交流し日本文化を発信。文化庁長官表彰等、受賞多数。

赤松: 来年（2023年）キャンパスの全面移転をします。新校舎は京都の街の玄関口です。京都市の決意表明だと受け止めて、我々も全身全霊で取り組んでいます。コンセプトは“テラスのような大学”です。多くの人に訪れていただいて、生まれたての芸術に触れ、面白さを感じてもらいたいですね。産業や研究機関の方々にも来ていただいて、一緒に取り組みたいです。私たちも出掛けやすくなりますから、外に向かって発信していくつもりです。新型コロナが落ち着けば、国際的な研究者や

アーティストや学生たちがやってくるはずですよ。一緒にまた新しいものを生み出していくことができるでしょう。

竹内: 京都駅前移転は、京都じゃないと多分できないことだと思うんです。

堀場: そうですね。経済的に見ても、京都駅前に芸術を持っていくことは大きな起爆剤になると思います。また京都がカルチャーを大切にするのだという強い意志も伝わるはずです。京都の財産はやはりアカデミアです。150万の人口の中で15万が学生ですから、京都の企業は、その財産である学生を十分に採用し切れていないのではないかと、思います。より多くの学生が京都に留まり続けてくれるよう、企業は大学と連携してアピールした方がいいですね。京都の未来を支える人材をもっと増やしていきたいと考えています。

竹内: 堀場副会頭は、企業経営者と大学トップの皆さんで勉強会をされていますね。

堀場: 大学と企業が交流することでクリエイティブな考え方が生まれてくると思います。私はいつもも言っているのですが、知識はすごく大切です。でも知識だけでなく知恵も必要。知識と知恵を持って人は経験する。すると失敗することもあります。この失敗を財産にする人には“ひらめき”があると思うのです。芸術の世界も同じではないでしょうか。基礎的なことを学び、知恵を得て……でもほとんどは失敗します。



妙心寺 退蔵院 池泉回遊式庭園「余香苑（よこうえん）」

だからこそ、ひらめきのある芸術家が出てくるのではないかと思います。様々なジャンルでひらめきのある人を育てること、京都ならできるはずです。

塚本: 京都っていわゆる“侘び寂び”や歴史・伝統など、古くからのものばかりが強調され、それを求めて色々なジャンルの新しい人が大勢来ています。だから京都は多様な方々と出会える可能性があるところなんです。2025年には大阪・関西万博が予定されていますが、京都にも行ってみたい方も多いと思いますので、京都の良さを、もっとアピールしていきたいですね。会員企業の方々と一緒になって、もっと京都の魅力を、もっと知っていただく努力をしていくことが大事だと思います。

竹内: 松山副住職は今後10年についてどうお考えですか。

松山: 私は強烈な少子化を実感しています。長女が今7歳ですが、同級生は日本全国で約100万人です。4歳の次女の同級生の数は90万人なのです。たった3年で10%減っています。団塊の世代は230万人。私は昭和53年生まれで160万人くらいです。140年前の遷都で京都の人口は3分の1減少するピンチでしたが、当時の皆さんが頑張って工夫したから今の京都の礎があると思うのです。相当な危機感を持っていたはずですが、ですから、現在の人口減少に対して皆で危機感を持てるかが、今後10年の大事なことだと私は思いますね。

堀場副会頭が「京都は大学の街だが、学生を十分に採用し切れていない」と話されていましたね。私は東京の起業家と話していると「京都に拠点を持ちたい」と言われることが多いのです。ですが色々な制限があって、なかなかアクセスできないそうです。もったいないですよ。百年の計を持って、まちづくりを考えた方がいいんじゃないかと思うのです。

もう一つは、京都市民の幸せをもうちょっと考えた方がいいと思います。あるお医者さんが「京都の平均寿命は全国的に高いが健康寿命は低い。特に女性のギャップが非常に大きい」とおっしゃっていました。これも大きな社会問題です。皆が幸せで健康的で初めて都市の礎が築けると思うので、もう一度真剣にまちづくりと京都市民そのものの健康と幸せ、これをちゃんとしないといけないのではないかと思いますね。



ジャーナリスト・キャスター 竹内 弘一

1977年生まれ。大阪府出身。KBS京都のアナウンサーとして京都に特化した経済番組「京 biz」を立ち上げる。現在、フリーのキャスター・記者・アナウンサーとして活躍。京都先端科学大学総合研究所特任教授。

新たな京都を創るために

竹内: 京都は世界に類を見ない素晴らしい都市ですし、大学が多く若い人がたくさんいる面や産業の面を考えると、世界トップクラスのポテンシャルがある。でも、このポテンシャルをどう開いていくのかが、今後の10年で試されるのかなと思いました。ここからは今後の10年に向けて、経済界に求めることを赤松学長と松山副住職からお話しいただいて、それを会頭、副会頭で受け止めていただきたいと思います。赤松学長が京都商工会議所に求められるものは何でしょうか。

赤松: 京都市立芸術大学ができたのは142年前の明治の黎明期です。当時の絵師たちが、襖絵や京焼の絵付け、友禅など絵を学ぶことで産業が復興できると考え、本学が創られました。国や文科省の指示で創られたのではないのです。そこに私たちは誇りを感じています。現場のニーズから生まれた本学なら、我々は今後も京都の人々と手を携えることができと思っています。企業の方々にお知恵をお借りしたり、反対に私たちの何かでお役に立てればいいなと思います。塚本会頭がお話しされていた京都のローカリティやしなやかさ・強さを我々も知り、生かしていきたいです。

松山: 外に目を向けることは大切ですが、海外勤務された方が、全然日本や京都のことを知らなかったと思われることは多いと思います。京都の経済界の人でも、なかなか京都の文化に触れたり知る機会は少ないと思うのです。でも、人材育成や物の見方、心の問題……京都にはそういった問題に関する歴史と知恵

があります。ですから、ぜひ経済界の皆さんにも京都の昔からの知恵に触れるチャンスを増やしていただいて、さらに京都の魅力を感じていただきたいですね。

堀場：おっしゃるように皆、京都について漠然と知っていますが、実際のところ多くの方は、本質までは理解できていない。この点、我々も知ってもらうための努力をしていないと思います。だから、やはり交流の場をつくって、そこから気づかないといけないのではないのでしょうか。

竹内：京都の方々だけでなく京都以外の方々も京都に来て交流をすれば、新たな発見ができたり、京都や日本のことが好きになったりできそうですね。

堀場：そうですね。海外に行って現地の方から最初に聞かれるのは、日本の歴史や京都のこと。我々の時代は比較的そういう基礎的なことを勉強してきたと思います。でも、今は知らない人も増えてきました。基礎的なことを知らないと京都を正しくアピールすることができないので、体系立てた教育が必要です。そうした努力を抜きにして、真のグローバル化は果たされないとと思うのです。

竹内：これからの10年、京都商工会議所はどういっ

た方向に進むべきだと思いますか。

堀場：一つは、大企業も中小企業も交流によってお互いを理解して、経営や情報発信の質を高めていくことです。もう一つは、もっと大学とビジネスの世界が交流すること。そこから自ずと答えは出てくるような気がします。全く新たなものではなくとも、今ある財産を生かすことで大きな進展が望めると思います。

竹内：ありがとうございます。それでは塚本会頭。京都商工会議所は12,000社の会員さんがおられる、まさに京都の経済界の中心です。結びに140周年を迎えた京都商工会議所についてお話しいただけますか。

塚本：京都から他の地域へ行かれても、京都に生まれて育ったということに自信を持っている方も多いです。日本を離れ海外に行ったら日本の良さがわかるように、京都の方が他の地域へ行ったら京都を見つめ直したときに、京都はこんなに皆に知ってもらっている、興味を持ってくれていると感じられるはずです。それが京都人の自信に繋がると思います。これからの10年に向けて、京都の方々が京都を知り、京都に誇りと自信を持つことで、より素晴らしい京都になっていけるはずだと確信しています。

竹内：皆様、本日はありがとうございました。

撮影場所：臨濟宗 妙心寺 退蔵院 収録日：2022年8月4日 座談会の動画はこちら



多様性を生かし 世界に通用する京都へ

京都精華大学 全学研究機構長

ウスビ・サコ



多様性というのは無理に生み出すものではなく、社会にすでにあるものです。同じ人種であっても、同じ日本人であっても、あなたと私の当たり前は違う。当然のことですが、日本ではこの意識が薄く、多様性よりも同調性を重視してきたように思います。幼い頃には自由であった発想も、教育を受ける過程でテンプレート化されてしまう。ですがグローバルに通用するイノベーションを起こすには、異なる価値観を持つ者同士が協働することが重要です。個々の違いを「ハンデ」ではなく「アドバンテージ」に変える力をいかに育てていくかが、これからの課題でしょう。

京都には、多様な文化を受け入れ、京都らしく磨き上げてきた歴史があります。こうした自と他を明確に区別しない曖昧さは、生活や宗教、産業の面でも現れており、これこそが今世界が求めるコモンズ（共有資源）だと言えるでしょう。京都を訪れる外国人の多くはこの曖昧さに居心地の良さを感じるでしょうし、私自身もそうでした。

一方で、京都は閉鎖的だと評されることもあるように、言葉にしなくてもわかるだろう、という職人氣質の強い土地でもあります。その土地固有の文化を無理に変える必要はありませんが、相手に伝えることで、自分自身の理解が深まることもあるはずで、せつかく世界有数の観光都市、歴史都市としてのポテンシャルを持っているのだから、外からの評価に委ねるのではなく、京都の魅力を京都自らが語るべきではないでしょうか。これからは共有財産・共有文化・共有京都という意識のもと、京都人自身がリーダーシップをとって京都を発展させていくことが大切です。

大学のまち、多様性を受け入れ発展させる土壌、有形・無形の文化遺産。十分に生かし切れているとは言えない京都の強みを京都商工会議所がどのように生かし、世界に向けて展開するのか期待しています。グローバル化する今の時代、京都は京都の人たちだけのものではなく世界にとっても大切な場所だということを多くの人々に意識づけしてもらいたいですね。

プロフィール/マリ共和国生まれ。国費留学生として中国で学んだ後、1991年来日。京都大学大学院で建築学を専攻し、社会と建築の関係性を様々な角度から調査、研究する。2018年、京都精華大学学長に就任。アフリカ出身者として、初めて日本の大学の学長となった。2022年、京都精華大学全学研究機構長に就任。

インタビュー
動画はこちら



役員・議員メッセージ 「これからの10年に向けて」

より魅力的な京都をめざして

創立140周年を迎え、諸先輩方が築いてこられた歴史の重みを感じ、身の引き締まる思いです。言うまでもなく京都は、日本の伝統文化を象徴する都市ですが、これまでも伝統を守るだけでなく、新しいチャレンジにも積極的に取り組み、変革してきました。

「学生の街」として知られる京都は、文化や産業、そしてまちづくりに「学」が大きな役割を果たしています。また、京都企業は規模の大小に関わらず、伝統に根差した中長期的なビジョンを持ち、社会環境の変化に柔軟に対応できる強さを持っています。このような中で、京都のさらなる発展に向け、産官学が連携を強化し、次なるビジネスモデルを構築していきたいと思えます。

また、COVID-19により、人々の価値観は大きく変化しました。今後は観光需要が小規模分散型にシフトすることが予想され、次世代交通システム MaaS やメタバースなどの取り込みを通じて、「街のIT化」が期待されています。ビジターにとっても魅力的で利便性の高い街づくりに注力し新しい価値を生み出していくことが重要ではないでしょうか。

京都商工会議所会員全員で一致団結して、150周年に向け、京都をより魅力的な街にしていきたいと思います。



副会頭

堀場 厚

株式会社堀場製作所
代表取締役会長兼
グループ CEO

逆境を乗り越え、新しい時代を拓く

京都商工会議所創立140周年、誠にありがとうございます。明治15年の発足以来、京都の産業界を牽引してこられた諸先輩方の長年のご尽力に心から感謝と敬意を表します。

近年を振り返ってみますと、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻など、世界秩序を根底から揺るがすような想定外の出来事に次々と見舞われています。このような激動の時代である今こそ、目の前の変化に惑わされることなく、物事の本質を見極めることが大切です。

悠久の歴史を紡いできた京都は、過去にも戦乱や疫病、飢饉といった幾多の危機に遭遇してきました。そうした逆境を乗り越え、ピンチをチャンスに変えていく知恵が京都には備わっています。来たる次の10年においても、未来に継承していくべき自らの強みを生かしながら、新たな時代のニーズに応えるイノベーションを京都から発信していくことが期待されています。

このたびの節目を契機として、京都商工会議所が京都の産業界、日本経済の活性化に向けて中核的役割を担い、これまで以上に大きな貢献を果たすことができるよう、共に力強く歩んでいきたいと思います。



副会頭

山口 悟郎

京セラ株式会社
代表取締役会長

VUCAの時代をしなやかに生きてゆく

京都商工会議所創立140周年を迎えられますこと、誠にめでたうございます。京都経済界の発展に貢献された歴代の役員、会員、職員の皆様に心よりお祝いと御礼を申し上げます。

現代はVUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代と言われ、将来に向けて様々な変化が予想されます。その変化においては、リスクもありますが、様々なビジネスチャンスもあると考えています。

私は副会頭として、主に「知恵-1グランプリ」の審査や京阪神商工会議所合同の「ライフサイエンス振興懇談会」を担当させていただいております。「知恵-1グランプリ」においては、京都ならではの企業特性や強みを生かし、変化する市場ニーズに対応した新たなビジネスモデルの創出を支えていきたいと思っております。また、人生100年時代と言われ、健康寿命の増進が社会的なテーマとなっており、医療・創薬はもとより、他の分野においてもビジネスチャンスの広がりが考えられます。「ライフサイエンス振興懇談会」の活動を通じて、会員企業の皆様へ新たなビジネス機会の提供を進めていきたいと考えております。

これまで京都商工会議所会員が築いてこられた基盤を継承しながら、変化にしなやかに対応できるように活動を発展させていきたいと存じます。



副会頭

村田 恒夫

株式会社村田製作所
代表取締役会長

夢のある未来に向かって

エネルギー・資源を含めた物価上昇の円安による増幅、供給制約とサプライチェーン混乱の長期化、コロナ禍での行動制限・行動変化による影響の常態化など、かつて経験したことのない不確実性が地域経済を覆っており、いま直面している試練の先行きが見えないあまり、ともすれば経営者は次の一手を逡巡しがちです。

ただ一方で、コロナ禍で加速する世界的な経済・社会構造の変化に目をそむけ、ただ手をこまねき、前例踏襲を繰り返しているばかりでは、夢のある未来に向かって、自ら道を開いて前へ進むことはできません。

いまこそ求められるのは、パラダイムシフトの潮流を読み取り、前例に疑問を投げかけ、失敗を恐れず変革に挑戦する勇気と決断力によって、経営の持続可能性を高めていくことにほかなりません。

京都商工会議所創立140周年にあたり、明治時代の若き実業家たちのチャレンジ精神と団結力を思い起こしつつ、令和の時代に輝く企業の創出を後押しする商工会議所ならではの活動を、より一層推し進めるよう努力してまいります。



副会頭

土井 伸宏

株式会社京都銀行
代表取締役頭取

1882年に創立された京都商工会議所

京都商工会議所は明治15年、もちろん我々が生まれてもいなかった時代に創立されてから、今では会員数は約1万2千社となり、成長を続けていることに敬意を表したいと思います。

この年には日本銀行が開業、上野動物園が開園、海外ではサグラダ・ファミリアの建設が始まりました。日本が近代国家への道を歩み始めた中で京都商工会議所が産声を上げたのです。世の中が激しく成長へ向かう中で、私も実業を通じてその成長を体験したいという思いに駆られました。

さて、140年経った現在はコンピューターが主流の時代になり、そこで情報格差が広がり、貧富の差にまで影響するようになりました。ビジネスも複雑になり、単なる売り買いの商売から、フリーミアムやサブスクリプションなどの手法が大きく成長を遂げています。商工会議所の役割は、会員の殆どを占める中小企業の皆様に、いかに早く有意義な情報を伝えられるかが大切だと思っています。これからも副会頭として、微力ながら会員の皆様のお役に立てればと思っています。



副会頭

齋藤 茂

株式会社トーセ
代表取締役会長兼 CEO

人財力こそ生命力

創立140周年、心よりお祝い申し上げます。

京都商工会議所は、長きにわたり歴史と伝統を温故知新の糧として、会員企業や関係団体とのつながりを強化し多彩な事業を展開してきました。これからも一層連携を深め観光振興をはじめ京都経済の成長に向けて、各々の個性や魅力が輝く未来をオール京都で創造してまいります。

京都には世界から評価される多様な価値が存在します。悠久の歴史で培われた豊かな文化、学術、藝術、そして美しい自然を大切に、花鳥風月を愛でる繊細な感性やおもてなしの心をもって、先人たちは伝統を守り革新を繰り返してきました。

コロナ禍による市場の変化、さらなる少子化の進展、AIやICT等先端技術の革新など目まぐるしく変化する時代の中、京都固有の産業と生活文化を継承し持続可能な発展を可能にするためには、誰もがいくつになっても学び直し、進取の気性をもって活躍できるしなやかで多様性に富んだ、社会や企業の仕組みを創る必要があります。

京都の多様な魅力の源泉である人財力を高めることで、「愛着、夢、ときめき、おもてなし」にあふれた京都の価値と都市格を高め、世界に発信してまいります。



副会頭

田中 誠二

株式会社キャリアール・
インターナショナル
代表取締役社長

これからの10年とその先の未来へ

京都商工会議所創立140周年おめでとうございます。

京都は長きに渡り、強みのある伝統産業と、電子・電気機器、医療機器などの強みのある近代型産業が融合し、京都経済を活性化させてきました。その中で、京都商工会議所は、数多くの委員会が自律的かつ活発に活動し、大企業と中小企業の交わりやオープンイノベーションを積極的に進めることで、新たな価値を創り出してきました。

コロナ禍で、京都経済・観光は大きな打撃を受けましたが、アフターコロナでは蓄えた京都企業の力を結集し、京都の明日を創り出すために、これからの10年とその先に向けてともに新たな一歩を踏み出しましょう。また、今年度、文化庁が京都に移転します。京都を起点として行きかう人が多くなり、京都の文化発信力はさらに大きく飛躍するでしょう。これをチャンスと捉え、経済と文化の融合による京都経済の活性化と、京都ブランドの向上を推進しましょう。

末筆となりましたが、140周年を迎えるにあたり、会員企業の皆様の持続的な成長とご多幸を祈念しお祝いのメッセージとさせていただきます。



副会頭

立石 文雄

オムロン株式会社
取締役会長

しなやかに ともに 生きる

「十年一昔」と言いますが、情報化時代にあり、時の流れは凄まじく速く、2、3年の間に世の中は変わってしまいます。その10年にも匹敵する貴重な3年間、我々はコロナとの闘いに終始しました。

本所が過去に経験したことのないことばかりで、運営方法も大きく変わり、コロナ補助金の相談などをはじめ、会員企業の事業継続への「守りの支援」が中心となりました。

しかしながら、その状況の中、会員の皆さんに何ができるかを皆で考え、今できることに知恵を絞り、数々の事業を展開しました。

次の10年も何が起こるかわからない今、この3年で学んだことを教訓に、「守る」だけでなく、機を見て「攻め」、次代を切り拓いていくことが必要です。

京都商工会議所は、今後も起こりうる新たな感染症や自然災害、更には、DXをはじめとするビジネスモデルの「変革」などの大きな波をしっかりと受け止め、塚本会頭が掲げられた本所のスローガン、「しなやかに ともに 生きる」のとおり、その時々々に敏感に反応し、臨機応変に、そして柔軟に対応しながら、会員の皆さんとともに歩んでまいります。



京都商工会議所
専務理事

兒島 宏尚

小売商業の未来に向けて

コロナ禍を契機として、小売業界においてもECやオンラインでのリモート接客等が普及しつつありますが、商いの基本である心のこもった接客や、より良い品揃えと商品への深い知識なくしては、顧客の満足、信頼を得ることはできません。おもてなしの心で国内外からの顧客を迎え、永く事業を継続してきた京都の小売商業の特長を踏まえれば、社会変化への対応だけでなく、商いの伝統を守り、知恵を継承する人材を育成しなければなりません。

「人」の問題は、企業経営において即効性のある解決策を見出し難いテーマです。やる気や能力を最大限引き出すために、働く環境だけではなく、やりがいや地域への貢献など、人を中心に自社の強みを掘り下げ、発信していくことが、「活躍の舞台」としての京都企業の魅力を高めることにつながると思います。

「人間はロボットではない」。愛情豊かな人間として、自分や相手のことを想い、様々な変化に対応でき、逆境に強い人間でありたいと思います。



小売商業部会
部会長

川勝 康行

株式会社川勝總本家
代表取締役社長

逆境にあってこそ潜在力の発揮を

京都は、地域と共に発展してきた多くの老舗企業により、多様で洗練された伝統産業や伝統文化が育まれてきました。一方で、精密機器やバイオテクノロジー等、数々の先端分野で活躍する企業を輩出するとともに、大学等との連携の下、世界をリードする技術も生み出し続けています。私たち京都商工会議所は、京都経済の屋台骨を支えているだけでなく、安心・安全な市民の暮らしや文化、地域コミュニティを支えていくとともに、地域に根ざす多くのネットワークを活かしながら創造的で活力あふれる京都の未来を築いていく役割があると思います。昨今のコロナ禍にあって、人口減少の進行や地域コミュニティの弱体化に加え、我々卸売業界を取り巻く経済環境も急速に変化しており、数々の困難に直面している状況にあります。しかし、これから先の10年を見据えた時、これまで京都に蓄積された多くの先人たちの知恵から学び取り、その時々時代のニーズをよく理解し、創造的・独創的な考えを持って互いの潜在力を発揮すれば、必ずや未来を切り拓いていけるものと確信致します。日本の宝、世界の宝である京都において、京都商工会議所が京都経済とともに150周年、200周年と発展し続けますことをご祈念申し上げます。



卸売商業部会
部会長

内田 隆

京都青果合同株式会社
代表取締役社長兼
グループ CEO

継続は力なり

京都商工会議所発足140周年を迎えることは誠にめでたく喜びに堪えません。発足された当時、京都では皇室が東京に移られ、人口の激減による大不況に陥っている最中であり、なかでも繊維産業は大打撃を受け、産業の近代化が急務であった時期でした。そこで和装から洋装への転換が進み、息を吹き返しましたが、やがて戦争の時代となり、軍事産業一辺倒となりました。敗戦後は、国力の回復とともに好況の波に乗り、特に和装は戦争でなくなった冠婚葬祭の衣服を買い揃えるといった復活で、かつてない好景気の恩恵を受けましたが、その後は反動で和装は長期にわたり不況が続き、生産数量でもピーク時の10%まで減少しました。これからの10年といえば推測することは至難の業で、特にここ3年続いたコロナ禍で、生産状況は極めて悪化しました。このコロナが収束すれば日本の伝統文化が見直され、他産業とのコラボ等により立ち直ると信じています。継続は力なりと申しますが、この難局を必ず乗り越えるために、すべての業界の人が適正な価格で消費者が求められる和装産業となるよう努力することを期待しております。



繊維・染織部会
部会長

服部 正毅

服部織物株式会社
代表取締役社長

これからの10年に向けて

これからの10年、即ち、2030年代初頭にかけて、京都も含めた世界の情勢が大きく変わると考えています。第二次世界大戦後から90年初頭までの「冷戦」時代にまで時計の振り子が戻るとは思いませんが、世界のブロック化が進み、相互に牽制し合う地政学的な緊張が続く予感がしています。

一方で、社会全体のデジタル化（DX）の進展は更に進み、特にビジネスの世界では、会議や議論の場、実際の装置や生産ラインを使わない各種シミュレーションが仮想空間上で行われることが普及していくと思われます。コロナ禍で移動の制限を強いられた教訓もあり、仮想空間で移動し集合するビジネスの実現が、企業の競争力に直結する時代となるだろうと思います。

京都という歴史と文化がある場所は、依然として世界中からの尊敬と共に存在し続けると思いますが、特に、京都でのモノづくり企業が各々の分野で世界のリーダーであり続けるためには、進化するDXと共存したオペレーションの高度化が求められます。更にはSX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）も取り込み、会社の規模に拘わらず、国際競争力を持つ企業経営が求められる「これからの10年」だと考えます。



電機・機械金属部会
部会長

垣内 永次

株式会社 SCREEN
ホールディングス
代表取締役 取締役会長

京都商工会議所創立140周年に寄せて

京都の街は、平安京の時代から千年の都として栄えてきました。白河法皇が天下三大不如意の筆頭に「賀茂の水」を挙げましたが、豊臣秀吉は堤防としての役割を兼ねた御土居を鴨川に沿って造り、さらに、今出川通りから五条通りまで堤防を設けて守ったことで、京都の街はより一層の発展をとげました。また、鴨川に京の風物詩である納涼床が始まったのもこの頃で、鴨川とともに栄えてきたのです。そして、明治維新による遷都後、京都の活力を取り戻すため、商工会議所が創立された時と同じく琵琶湖疏水が着工し、5年の歳月をかけて明治23年に完成しました。水力発電も行ったおかげで、新しい工場が生まれ、路面電車も走り出しました。また、疏水が市内に達して鴨川と合流したのに伴い、それを利用した水路として角倉了以が江戸時代に高瀬川を開削したのと同様に、鴨川運河の開削工事がなされ、宇治川と繋げて京都・伏見間の水上動脈となり、大型生活物資輸送に役立てられました。このように建設工事は、街の繁栄に欠かせないものであり、また、災害から街を守るためにも、今後とも、その任にあたっていききたいと考えています。



建設産業部会
部会長

小崎 学

京都府建設業協会京都支部
常任理事

これからの10年 ～整える～

京都商工会議所の創立140周年記念事業特別委員会の副委員長を仰せつかり、様々な意見交換をさせて頂く機会がありました。その中で、過去を振り返るよりも、新型コロナ感染防止対策で世の中が明らかに変化した今、これからの10年を考える節目にしたほうが良いと今回のテーマに至りました。食品・名産に携わる部会の方々も、この2年間苦労の連続だったことと思います。これからどのように経営していくのかを今こそ考え、それぞれがこの節目に、これからの10年をどういう企業体制でいくのかという「整える」ことをしていかなければならないのではないのでしょうか。お商売を大きくしていくことも大切ではありますが、継続の大切さを感じ、部会で行う事業も「整える」お役にたてるような事業をこれからも考え取り組んで参りたいと考えています。



食品・名産部会
部会長

石原 義清

株式会社俵屋吉富
代表取締役社長

試練の先にある輝きを目指して

京都商工会議所が創立140周年という記念すべき節目の年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。深刻化する人手不足問題、経済の多様化、DXの推進など、国内外の社会や経済を取り巻く環境は大きく変化しています。そして、この変化のスピードは年々増してきており、これまでの経験則や従来の考え方では対応できなくなっています。そこに新型コロナの感染拡大のような、誰も想定し得ないことが次々と起こるのが令和モードなのかもしれません。京都商工会議所に集う会員企業は、伝統を継承しつつも、常に時代の最先端に目を向け、アンテナを張り、新たな知恵や技術を取り入れてきました。そして、協調性を大切に、独創性に挑み続け、事の本質を見極める洞察力を鍛えてきました。生き生きと鮮やかに、そしてしなやかに、まさに「VIVID KYOTO」です。これからの10年もさまざまな試練が待ち受けていることでしょう。そして、この試練を乗り越えた先に、全く新しい京都の姿があるのではないかと思います。化学部会としましても、京都商工会議所がVIVIDに輝くために少しでもお役に立てるように努力してまいります。



化学部会
部会長

前川 重信

日本新薬株式会社
代表取締役会長

長期戦略と変化への即応力

京都商工会議所の創立140周年を心よりお祝い申し上げます。

この10年を振り返ると、インバウンド観光の急増やコロナ禍など、変化が矢継ぎ早に起きました。企業経営にとっては、これら個別の事象以外に、加速する経済社会のグローバル化や技術革新、サステナビリティなどの世界的な潮流とどう向き合うかが問われた10年だったと言えます。

本所が150周年を迎える10年先を正確に見通すことは容易ではありません。私たちがこの間の変化から身をもって学んだように、未来は想定以上に変化に富み、多くの場合は思い通りにならないのです。一方で、いずれ環境は変わるからと開き直り、長期的なゴールやそこへの到達方法、すなわち戦略の策定を放棄すると、単に変化に翻弄されるだけで、新たな経済価値や社会価値を生み出すことは難しいでしょう。

変化に富む時代の企業経営に求められるのは、長期的なゴールの設定と緻密な戦略の計画であると同時に、環境変化を敏感に察知し具体的に即応することです。そこでは大胆な軌道修正もありえます。それらの努力の継続が、京都経済の成長につながるものと確信しています。



生活産業製造部会
部会長

鈴木 順也

NISSHA株式会社
代表取締役社長兼
最高経営責任者

京都ブランドの新たな価値創出

昨今、コロナ禍の沈静化と国内需要の回復を背景に、観光も漸く立ち直る段階に入り、今後の内外からの入洛客の増加を大いに望むところです。その一方で、コロナ禍以前は、海外からの来訪者が京都に押し寄せ、観光地や市民生活に大変な混雑事象等を招いたことは記憶に新しいところです。その経験を踏まえ、「地域社会」、「観光客」、「観光に関わる事業者」という三者の関係性を一層強め、観光の受容力を高めることがより一層重要になってきます。その三者の関係性を強くするためには、例えば、事業者が地域との関わり合いを更に深めた取り組みを行う、あるいは京都に息づく歴史と文化、とりわけ職人の支える伝統工芸などを一層、観光客へ発信する、入洛するものとして振る舞うべきルールの啓蒙を行うなど、観光の持つ価値や意義をお互いに再確認し、より強化させていくことが必要であると思います。これらの地道で地に足がついた取り組みの積み重ねが、千年を超えて蓄積された文化の保有と承継という誇りに裏打ちされた京都ブランドの価値向上につながり、ひいては内外の人たちをより一層京都に引き付けることに大いに貢献するのではないかと考えています。



観光・運輸部会
部会長

福山 隆夫

京都駅ビル開発株式会社
相談役

これからの10年にむけて「伝統と革新」

京都商工会議所が創立140周年という記念すべき節目の年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げますとともに、その輝かしい歴史を伝える記念誌を発行されますことをお慶び申し上げます。京都商工会議所は、明治15年の設立以来、京都経済のため、そして京都で働き、学び、暮らす人々の幸せのため中小企業への企業支援を通じて多大なる貢献をしてこられました。それを支え続けてこられた役職員の皆様方、また多くの会員様方のご努力に深甚なる敬意を表します。新型コロナウイルス、地球温暖化等の環境問題、後を絶たない国際紛争等により、人々の価値観や生活様式が大きく変容する中、社会経済も従来の資本主義の枠を超え、持続可能な世界の実現に向けた大きな変革が求められています。このような混沌とする時代にあって、京都企業の持つ伝統と文化に育まれた知恵と業界をリードする高い技術力の中にこそ、地球規模、世界規模で革新を生み出す高い潜在力が秘められております。「伝統とは革新の連続」を体現する京都企業の皆様と共に、われわれ金融部会も金融サービスを通じ、新たな価値を創造していく伴走支援を行ってまいります。



金融部会
部会長

白波瀬 誠

京都中央信用金庫 理事長

京都の未来に向けて

京都商工会議所創立140周年、誠におめでとうございます。近年、世界の繋がりは最早ひとつになり、このたびのウクライナでの戦争が原因で原油価格や物価の高騰、円安の進行といった事態が生じるなど、遠方の国での事象であってもそのバランスは崩れ、日本のみならず世界経済へも大きな影響を与えています。これからの世の中、どこに、どんな危機が待ち受けているのか、予測するのは大変難しいことです。京都も文化財の保存をしながら観光都市としてその収入に頼っていましたが、今後は未来を先取りした京都独自のビジネスを生み出さねば、いずれ生き残っていけなくなると思います。例えば明治維新後、天皇陛下が東京へ移られ、京都が都市衰退の危機に直面した困難な時代がありましたが、先人達が互いの協力のもと、全国初の小学校の創設、琵琶湖疏水や水力発電所の建設、市電の開業、京都博覧会の開催など、新進気鋭のアイデアで復興に努力を重ねてこられました。文化庁の京都移転を契機に、今後も歴史ある京都の文化と産業の連携がより一層強められ、ひとつに繋がっている世界を相手に魅力ある独創的な京都ブランドが確立されることによって、京都のまちと人、文化と産業がより発展されることを願っています。



文化・情報部会
部会長

納屋 嘉人

株式会社淡交社
代表取締役会長

これからの10年に向けて

京都商工会議所創立140周年、誠におめでとうございます。

現在、コロナ禍による仕事・生活様式の変化、デジタル社会実現への流れ、環境保護、SDGsの取り組み等による経済・社会の在り方が見直されてきています。それらを積極的に取り入れ、新たなサービスの提供をしていくことが、今後の京都企業・経済界の発展に不可欠です。

しかし他の成功例を安易に模倣するのではなく、京都の誇る伝統産業や風習、これまでに培われ受け継がれてきた技術や文化を守り、発展させることを大前提にするべきです。そのために「京都らしさ」を改めて見つめ直してあげるのこない大きな柱とし、機械的ではなく人々の真心のこもった温かい「おもてなし」や「気配り」を常に忘れないようなサービスを考え、提供し続けていくことが重要と考えます。

令和5年に文化庁が本格移転され、日本文化の伝承・発展・発信源として、京都の役割がより重要となっていきます。我々サービス産業部会員が一丸となり、「京都らしさ」を柱とした京都経済の更なる発展に貢献できるよう努めて参りますので、今後とも皆様どうぞよろしくお願い致します。



サービス産業部会
部会長

安道 光二

ワタキューセイモア株式会社
取締役会長

これからの10年にむけて

京都商工会議所創立140周年を心よりお祝い申し上げます。近年のIT産業の興隆、伝統産業の衰退、また観光産業への行政の方向性は、京都の経済構造に大きな影響をもたらしてきました。とりわけ、今回の新型コロナによる世界からのインバウンド客と国内観光客の激減は、観光都市京都の基盤をゆるがすこととなりました。少子高齢化に加え、消費者の価値観と社会構造の変化は年々加速しており、迅速で柔軟な対応が求められています。なかでも、新たなワークスタイルとして定着してきたリアルとオンラインを併用した経営形態や働き方の多様化は、今後さらに促進されると思います。これからの京都の産業や様々な文化が持続可能であるためには、未来を担う若者、子育て世代が定住できる環境や雇用の安定をはじめ、ベンチャー起業家の支援など、次世代が希望のもてる盤石な土壌の構築が求められます。また、京都経済を牽引する多種多様な経営者との出会いや交流は、生きた知恵の相伝と新たなビジネス創造の宝庫です。固定観念にとらわれず、時代の潮流にバランスよく呼応しながら個々が戦えるものを個性として、磨き熟成させていくたゆまぬ歩みを次代へつなげていきたいと思えます。



女性会 会長
葛城 万寿子

有限会社かつらぎ
専務取締役

時が流れても変わらないもの

このたび、京都商工会議所が創立140周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

この10年を振り返りますと、どこを切り取っても大きく時代が変化したことを感じられます。例えば、国内のスマートフォンの普及率ひとつとってみても、2010年は4%であったものが、2022年は94%と格段に増加し、それに伴って社会構造や人々の暮らしが劇的に変化したことは皆様ご承知のとおりです。

それでは次の10年はどのような時代になっているのでしょうか。デジタル技術は今より格段に進化していることでしょうか。しかし、デジタル技術が進化すればするほど重要なのは、それを扱う人そのものです。その中でも特に、人のこころの豊かさが重要となるのではないのでしょうか。そのこころの豊かさを育むためには、人との繋がりや文化的素養が重要と考えます。これはどれだけ時が経っても不変のものです。

京都商工会議所は、文化庁が存する都市の商工会議所として、益々の文化の創造と発展に寄与され、社会にイノベーションを起こす企業群のゆりかごとしての役割を果たされることを期待しております。



青年部 会長
朝生 修弘

株式会社ブルーム通信電設
代表取締役

「古」と「新」の 掛け合わせに 京都の真価あり

華道家／写真家 池坊 専宗



いけばなは、仏教の「仏前供花^{ぶつぜんくげ}」や、室町から戦国時代にかけて花の命と自分や死者の命を重ねたことに由来があり、今もそこに本義があります。今を生きる人が求める花、社会が進む方向に寄り添う花、そうした花を生けるということです。社会や人に寄り添うことは、自らに寄り添うこと。自らの心の在り様に率直になり、花と向き合って静謐な時を過ごし、それを日々繰り返すことが大切です。

私は、自分が生けた花を「作品」と呼びません。実利を求めないのが、花を生けることだからです。経済性を優先しがちな社会で、時間と手間をかけて花を生け、ただ枯れていく時をともに過ごすことに意味があります。

江戸中期にいけばな人口が増え、明治には合理的な手法や西洋の考え方が輸入され立派で格調高い花が生けられるようになりました。しかし経済が行き詰まる現在、いけばなは、より本質的な、一人一人との関係性を見直すような花に回帰する必要があると思います。

安土桃山の頃、三十世家元・専栄が生けた

花が絵図で残っています。時代時代の人がこの絵図を参考に生け直しては試行錯誤を重ねてきました。本質的な新しさ、未来に繋がる普遍的な価値が古いものに宿っていると感じます。

京都には古い歴史がありますが、重要なのはそれらが「生きて」いるということです。ただ鑑賞・保護されるのではなく、京都に生きる人が、文化を生活に取り入れていることが強みなのです。アジア圏から輸入した文化を換骨奪胎し日本に溶け込ませながら、千年以上にわたり文化・歴史を保存・蓄積してきた京都のポテンシャルを、人から人へ伝承する必要があります。文化の上澄みを提供するだけでは、いずれ先細ってしまうでしょう。

地元の人たちだけでなく、京都に関わる多様な人々が協力し、古さと新しさを掛け合わせて普遍的な価値を提供できたなら、単なる観光都市という次元を超えた、世界と伍する魅力的な都市になれるはずだと思っています。

プロフィール／京都生まれ。華道家元池坊の四十五世家元池坊専永の孫。母は次期家元の池坊専好。慶應大学理工学部入学後、東京大学法学部入学。東京大学卒業時に成績優秀として「卓越」受賞。自分のいけばなを撮影し、写真でも表現する。京都現代写真作家展新鋭賞受賞。信条は「光を感じ、草木の命をまなざすこと」。

インタビュー
動画はこちら



京都商工会議所 創立140周年記念行事

皆さまのおかげをもちまして、
創立140周年記念式典・アニバーサリー交流会を開催しました。

記念式典の様子は創立140周年記念サイトにてご覧いただけます。



2022年9月28日(水)

国立京都国際会館

記念式典

ニューホール 15:00～16:30
参加人数 270人

アニバーサリー交流会

イベントホール 13:00～19:00
参加人数 1,150人

創立140周年記念式典

式辞 (京都商工会議所 塚本能交会頭)
来賓祝辞 (近畿経済産業局 伊吹英明局長
(経済産業大臣祝辞代読)
京都府 西脇隆俊知事
京都市 門川大作市長
日本商工会議所 三村明夫会頭)

来賓紹介

物故者追悼

京都・知恵アントレ大賞2022表彰式

創立140周年記念映像「これからの10年に向けて」

創立140周年記念式典宣言(京都商工会議所 石原義清常議員)

閉会挨拶(京都商工会議所 堀場厚副会頭)



オープニング:
先斗町歌舞会による祝舞



式辞

京都商工会議所 塚本能交会頭



創立140周年記念式典宣言

石原義清常議員
(創立140周年記念事業特別委員会副委員長)



閉会挨拶

堀場厚副会頭
(創立140周年記念事業特別委員会委員長)

来賓祝辞



伊吹英明近畿経済産業局長



西脇隆俊京都府知事



門川大作京都市長



三村明夫日本商工会議所会頭

京都・知恵アントレ大賞2022

初開催となる「京都・知恵アントレ大賞2022」は、応募総数82件のなかから、厳正なる審査の結果、「京都・知恵アントレ大賞」1件、「京都・知恵アントレ賞」3件を決定しました。

表彰式



京都・知恵アントレ大賞 <活動助成金 300万円>



リージョナルフィッシュ (株) (左京区) 創業2019年
代表取締役社長 梅川 忠典 氏



「ゲノム編集技術を用いた水産物の品種改良×スマート養殖の展開」

ゲノム編集と呼ばれる自然界でも起こる遺伝子の突然変異をコントロールする品種改良技術によって、世界的な動物性たんぱく質不足の解決に取り組んでいる。世界初となるゲノム編集動物食品である「22世紀鯛」は可食部が多く、厚生労働省や農林水産省にも認められた安全性の高い食材で、京都の料亭と企画した試食会でも、高い評価を得た。

今後は、品種改良した稚魚やIoTやAIを活用したスマート養殖システムを水産事業者などに提供し、「地魚(リージョナルフィッシュ)」を地域の新たなブランドとして創造するとともに、後継者不足などの課題を抱える日本の水産業の活性化に寄与していく。

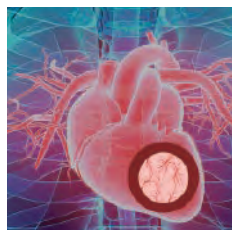


京都・知恵アントレ賞 (3件) <活動助成金 各100万円>



iHeart Japan (株) (中京区) 創業2013年
代表取締役 角田 健治 氏

「iPS 細胞を応用した
心不全の再生医療」



(株) バイオーム (下京区) 創業2017年
代表取締役 藤木 庄五郎 氏

「生物判定 AIと生物分布ビッグデータを用いた生物多様性市場の創出」



Flora (株) (左京区) 創業2020年
代表取締役 クレシエンコ アンナ 氏

「働く女性のココロとカラダを支える『Flora for Biz』」



アニバーサリー交流会



開会挨拶

内田隆常議員
(創立140周年記念事業特別委員会副委員長)



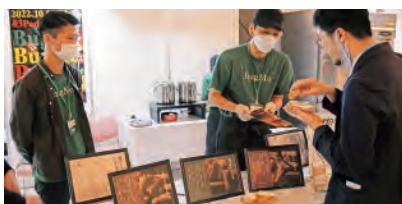
鏡開き



閉会挨拶

納屋嘉人常議員
(創立140周年記念事業特別委員会副委員長)

京都商工会議所の 支援先等による フードコーナー



スタートアップ企業が提案する新たな食



若手京料理人による特別メニュー



青年部お茶席



キッチンカー



人気のパン・スイーツ

ステージ



よしもと芸人による楽しいステージ



来場者会員企業の
PR タイム・トークセッション

若手経営者・女性経営者による トークセッション



(株) 笹屋伊織
女将 田丸みゆき氏

(株) フラットエージェンシー
代表取締役 吉田創一氏





知恵ビジネス

- ◎あたらしきもの京都
- ◎知恵 - 1 グランプリ



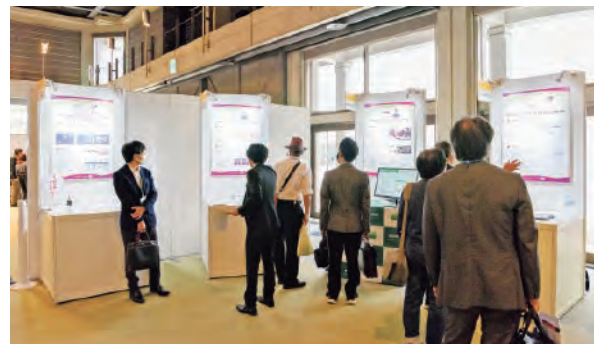
文化・スポーツ

- ◎文化庁京都移転
- ◎スポーツ振興 (京都ハンナリーズ・京都サンガ F.C.)
- ◎京都創造者大賞 ◎伝統産業 PR コーナー



DX・デジタル

- ◎XR (AR・VR) ・メタバース体験



スタートアップ

- ◎「京都・知恵アントレ大賞2022」事業者紹介



会員企業成長の軌跡



京都商工会議所 ヒストリー



会議所関連事業 PR

- ◎2025年開催の「大阪・関西万博」PR
- ◎京商アーカイブセミナー
- ◎京都・観光文化検定試験



創立140周年記念関連事業報告

2022.5.10

観光・運輸部会 創設70周年記念式典・部会員交流会

記念式典では、小売商業、食品・名産、観光・運輸の3部会の部会長により「京都観光再興に向けた3部会共同宣言」を発表。交流会では70年の部会のあゆみを映像で振り返った。



2022.5.14・8.16・9.10・10.29

スポーツ振興特別委員会 京都サンガ F.C. 観戦デー

会員事業所の役員・従業員、ならびにその家族を対象に、京都サンガ F.C. の特別観戦企画を4回にわたって実施。開幕よりJ1のステージで熱戦を繰り広げる選手たちの姿を観戦した。



2022.5.27

ダイバーシティ推進特別委員会 「ダイバーシティ経営セミナー」

NPO 法人 J-Win 理事長の内永ゆか子氏よりダイバーシティ・マネジメントをテーマに講演いただいた。交流会では、次世代女性リーダー育成研修の卒業生による自社での成果発表を行った。



2022.6.6

サービス産業部会 講演会・交流会

㈱京はやしの代表取締役 林幸平氏、㈱CAELUM (zarame) の代表取締役 能勢雅子氏、㈱ランプの代表取締役 河野匠氏などにより、コロナの逆境からの成長をテーマにパネルディスカッションを行った。



2022.6.9

金融部会 講演会・昼食交流会

部会員45名の参加のもと、文化庁地域文化創生本部 事務局長 高田行紀氏を招き、文化庁の京都移転の意義や文化芸術資源の活用を通じた経済や地域の活性化についてご講演いただいた。



2022.6.17

文化振興特別委員会 文化×産業フォーラム

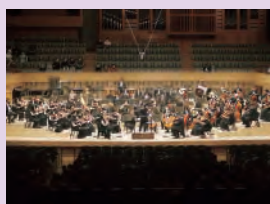
108名の会員の参加のもと、上七軒歌舞練場にて開催。文化庁地域文化創生本部 文化財調査官 吉野亨氏の基調講演に続き、クラウドファンディングを活用して価値創造に成功した事例を紹介した。



2022.7.6

女性会 2022七夕チャリティーコンサート

京都コンサートホールにて開催、およそ1,600名の方に来場いただいた。ゲストのソプラニスタ・岡本知高氏に美しい歌声を披露頂いたほか、塚本会頭を交えたスペシャルトークを行った。



2022.9.13

京商フューチャーフォーラム

パナソニック ホールディングス㈱ 会長 津賀一宏氏をはじめ、各方面で活躍する講師を迎え、未来への扉を開くビジネスや経営のヒントとなるお話をいただき、会場で250名、オンラインで60名が聴講した。



2022.9.14

国際経済・交流特別委員会 講演会

筑波大学 名誉教授の中村逸郎氏に「ウクライナ情勢から考える世界の経済と平和」をテーマにご講演いただいた。ロシア、ウクライナの現地の状況をお話し頂くと共に、経済への影響についても伺った。



2022.9.20

卸売商業部会 記念植樹目録を京都市長に贈呈

梅小路公園の東南に位置する大宮南ちびっこ広場へ、議員一同より「しだれ桜1本」を記念植樹することとなり、植樹に先立ち、内田部会長から門川市長へ記念植樹の目録を贈呈した。



2022.9.27～12.31

工芸産業振興特別委員会 京都ぶらり体験工房マップを制作

高度な技術と丁寧な手仕事から伝統産品が生まれる現場を肌で感じることができる工房マップ3,000部を制作した。

2022.10.3

科学技術振興・新産業創造特別委員会 新産業創造講演会

大学における研究や人材育成について、京都工芸繊維大学学長 森迫清貴氏による講演の後、大学関係者と正副委員長によるパネルディスカッションを実施した。

2022.11.9

化学部会 視察見学会・部会員交流会

3年ぶりに視察見学会を部会会議と併せて開催。お香を製造・販売されている(株)松栄堂において本社香房見学や薫習館のにおい袋づくりを体験した後、ホテルモントレ京都で、部会員交流会を開催した。

2022.11.16

文化・情報部会 秋の部会員交流会

邦楽連中の方々による「連獅子」等の演奏と宮川町「駒屋」の芸舞妓の舞が披露され、参加者は伝統文化を楽しみながら、部会員同士の親睦を深めた。

2022.11.21

建設産業部会 講演会・部会員交流会

今後の京都のまちづくりについて、京都大学大学院工学研究科教授 藤井聡氏をお迎えし講演いただいた後、部会員交流会を開催した。

2022.11.28

小売商業部会 講演会

「コロナ禍での健康管理」をテーマに、京都大学名誉教授 森谷敏夫氏をお迎えし、講演会を開催した。

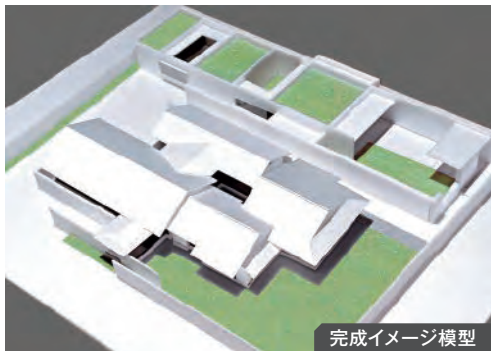
文化庁京都移転支援

「文化と産業の交流拠点」整備事業

～元府議会議員公舎(富岡鉄斎旧邸宅)を活用・再整備～

2023年3月の文化庁京都移転に合わせて、文化を活かした京都の産業振興と新たな価値創造につなげるために、文化と産業の交流・連携、情報発信の拠点となる施設を整備します。

本事業は本所の創立140周年記念事業の一環として、2023年の完成に向け準備を進めています。



完成イメージ模型

©K.ASSOCIATES

建設地は明治・大正期の文人画家で儒学者の富岡鉄斎(1837～1924)の旧邸宅があった場所で、2012年まで京都府議会議員公舎として使用されていた土地・建物を、本所が京都府より無償で貸与を受け、一部の部材を再活用し、既存建物を解体し再整備するものです。旧邸宅にあった茶室や画室など和の趣を保存・再生するとともに、文化と産業の交流や情報発信する洋のゾーンを新たに設けます。

本事業の整備に当たっては、本所監事であった(株)福寿園の故福井正典名誉会長からのご寄付を頂戴し、整備費の一部に充当させていただきます。

一部の部材を再活用し保存・再生する解体前の画室外観



© 京都工芸繊維大学清水研究室

拠点の活用例

① 「京都のくらしの文化・産業館」機能

- 「くらしの文化」「文化×産業」など、京都独自の文化を活かした価値創造の発信
- 伝統工芸、茶道、華道、香道等の文化体験拠点 など

② 「未来産業創生館」機能

- 文化・ビジネス交流、サロン空間
- 文化・アートと産業分野の連携に関する先進事例の発信拠点
- インキュベーション、コラボレーションの推進拠点 など

③ 「京都経済センターサテライト」機能

- 京都検定や文化関連講演会
- 各種展示会、研修等への貸会場 など

④ 「迎賓・接遇」機能

- 各種式典やレセプションに対応した迎賓・接遇拠点 など

施設概要 (予定)

- ・建設地：上京区室町一条下ル
- ・敷地面積：約1,270㎡
- ・延床面積：約400㎡
- ・建物構造：鉄筋コンクリート造・木造
地上1階建

【本館】約250㎡

- 多目的(洋)ゾーン
文化と産業の交流・融合や情報発信など多目的な使い方に対応する明るい光の入るバリアフリーなゾーン
- 旧富岡鉄斎邸(和)ゾーン
旧富岡鉄斎邸の画室・茶室・和室の趣を保存・再生し、縁側から臨む整備された庭と一体感を保ち、日本文化の創造的な使い方を誘発するゾーン

【別館】約150㎡

- 文化庁利用施設



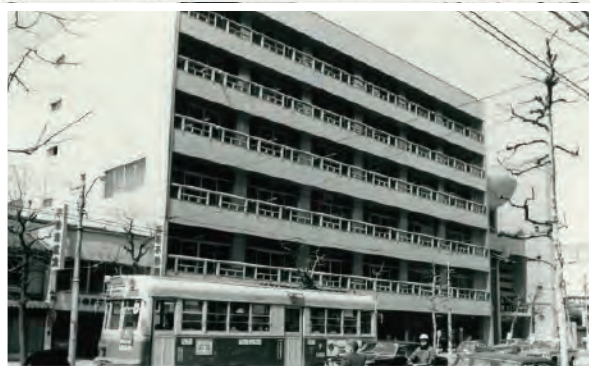
京都商工会議所の組織



明治期会議所 (歴彩館データ 京都府写真帖より)



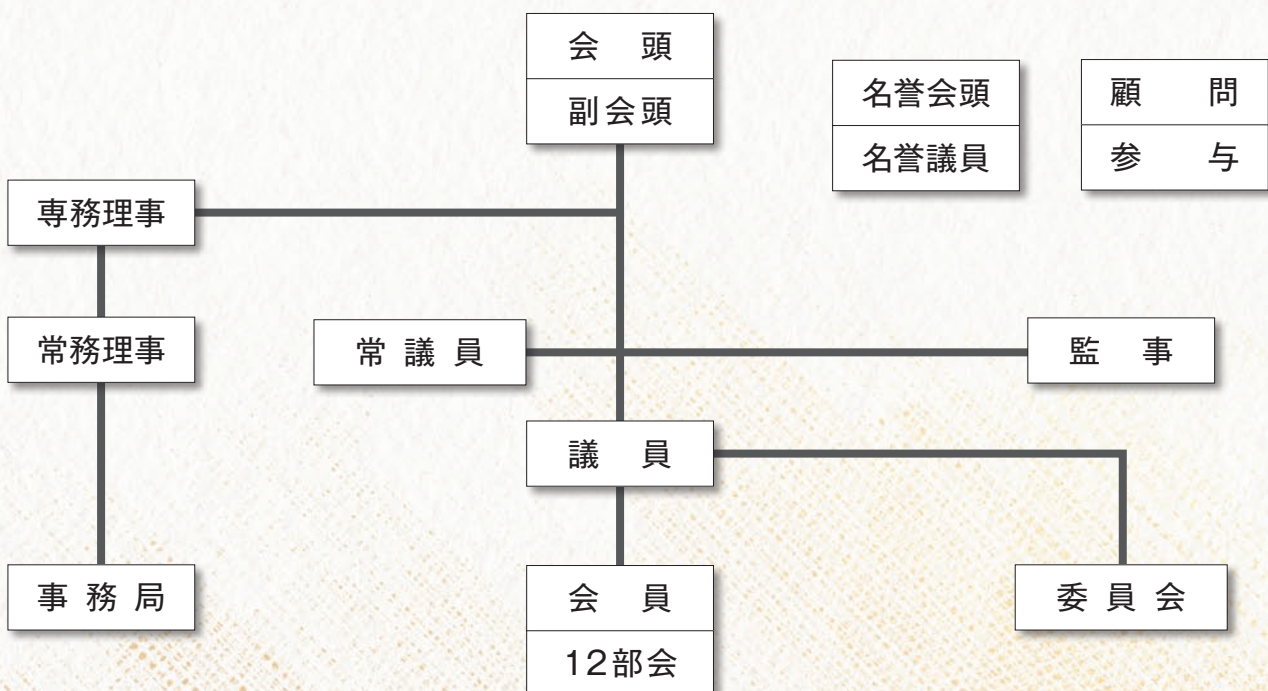
会議所ビル2代目



会議所ビル 3代目



京都経済センター (現在)



部会・委員会の変遷

■ 部会 [12部会]

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
小売商業部会	川勝 康行										
卸売商業部会	池本 周三				内田 隆						
繊維・染織部会	服部 正毅										
電機・機械金属部会	村田 恒夫						垣内 永次				
建設産業部会	岡野 益巳								小崎 学		
食品・名産部会	平井 義久						石原 義清				
化学部会	大柳 雅利								前川 重信		
生活産業製造部会 ※	山元 康裕		井上 正英			津田 雅彦	鈴木 順也				
観光・運輸部会	岩井 一路			田中 誠二				福山 隆夫			
金融部会	布垣 豊			白波瀬 誠							
文化・情報部会	湯浅 圭一			納屋 嘉人							
サービス産業部会	齋藤 茂							安道 光二			

※2015年8月1日に一般工業部会から名称変更

■ 常設委員会

	2013	2013 <改選後>	2014	2015	2016	2016 <改選後>	2017	2018	2019	2019 <改選後>	2020	2021	2022
中小企業活性化委員会	岡野 益巳				津田 純一								
産業政策委員会	堀場 厚												
地域開発・都市整備委員会	平井 義久												
都市整備委員会	山口 悟郎												
選挙制度・会員強化委員会	貴志 吉延	川勝 康行								石原 義清			

■ 特別委員会

	2013	2013 <改選後>	2014	2015	2016	2016 <改選後>	2017	2018	2019	2019 <改選後>	2020	2021	2022
工芸産業振興特別委員会	若林 卯兵衛										福山 隆夫		
関西化学術研究都市推進特別委員会	杉原 五郎	山元 康裕	井上 正英				津田 雅彦						
国際交流特別委員会	福永 晃三	白石 方一				納屋 嘉人							
国際経済・交流特別委員会	齋藤 茂												
ファッション産業振興特別委員会	吉田 忠嗣												
観光産業特別委員会	南 隆明	田中 誠二			岩井 一路				稲地 利彦				
環境対策特別委員会	石田 敬輔												
環境・エネルギー特別委員会	石田 敬輔								柿本 敏男		小畑 英明		
スポーツ振興特別委員会	大倉 治彦												
京都ブランド推進特別委員会	齋藤 茂								内田 隆				
産学連携・新産業推進特別委員会	位高 光司	辻 理											
科学技術振興・新産業創造特別委員会	辻 理												
京都市南部創造特別委員会	辻 理	後藤 功	野村 憲司			大宮 正		中西 たえ子					
人材開発特別委員会	鈴鹿 且久												
産業人材育成特別委員会	鈴鹿 且久												
京都経済センター推進特別委員会	服部 重彦												
文化振興特別委員会	納屋 嘉人												
ダイバーシティ推進特別委員会	中西 たえ子												
創立140周年記念事業特別委員会	堀場 厚												
人権特別委員会	奥原 恒興							兒島 宏尚					

※いずれも2022年10月31日時点

京都商工会議所 歴代会頭紹介

■初代会長

1882 (明治15)年10月20日～
1885 (明治18)年5月



高木 文平

■第2代会長

1885 (明治18)年5月7日～
1885 (明治18)年11月



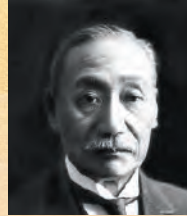
山本 覺馬

■第3代会長

1885 (明治18)年12月21日～
1891 (明治24)年6月7日

■初代会頭

1891 (明治24)年7月7日～
1901 (明治34)年5月8日
関西貿易会社社長



濱岡 光哲

■第2代会頭

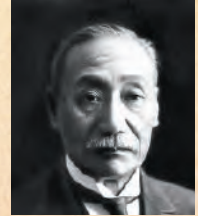
1901 (明治34)年6月15日～
1910 (明治43)年12月14日
西陣織物商



西村 治兵衛

■第3代会頭

1911 (明治44)年5月17日～
1928 (昭和3)年4月26日
京都火災保険(株) 社長



濱岡 光哲

■第4代会頭

1928 (昭和3)年5月1日～
1929 (昭和4)年3月31日
縮緬商



稲垣 恒吉

■第5代会頭

1929 (昭和4)年4月1日～
1933 (昭和8)年3月31日
直輸出入商



大沢 徳太郎

■第6代会頭

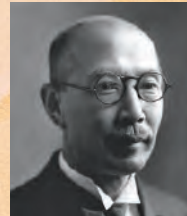
1933 (昭和8)年4月1日～
1940 (昭和15)年9月15日
京都電灯(株) 代表者



田中 博

■第7代会頭

1940 (昭和15)年9月18日～
1946 (昭和21)年10月15日
京都府繊維製品(株) 取締役社長



竹上 藤次郎

■第8代会頭

1946 (昭和21)年10月26日～
1965 (昭和40)年3月31日
廣中野種一郎商店



中野 種一郎

■第9代会頭

1965 (昭和40)年4月8日～
1968 (昭和43)年3月31日
日本レース(株) 取締役社長



岩井 盛次

■第10代会頭

1968 (昭和43)年4月19日～
1969 (昭和44)年3月31日
日本電池(株) 取締役社長



山岡 景範

■第11代会頭

1969 (昭和44)年4月7日～
1969 (昭和44)年11月26日
ヤマサン(株) 取締役社長



圓城 留二郎

■第12代会頭

1970 (昭和45)年2月4日～
1983 (昭和58)年3月31日
日本新薬(株) 取締役社長



森下 弘

■第13代会頭

1983 (昭和58)年4月5日～
1994 (平成6)年12月31日
(株)ワコール 代表取締役会長



塚本 幸一

■第14代会頭

1995 (平成7)年1月1日～
2001 (平成13)年2月2日
京セラ(株) 取締役名誉会長



稲盛 和夫

■第15代会頭

2001 (平成13)年2月2日～
2007 (平成19)年5月11日
村田機械(株) 代表取締役会長



村田 純一

■第16代会頭

2007 (平成19)年5月11日～
2020 (令和2)年3月31日
オムロン(株) 名誉顧問



立石 義雄

■第17代会頭 [現会頭]

2020 (令和2)年4月1日～
現在
(株)ワコールホールディングス 名誉会長



塚本 能交

「京都商工会議所」は1882 (明治15)年、京都府知事の認可を受けて設立、1890 (明治23)年公布の商業会議所条例に基づき、「京都商業会議所」として農商務省により認可された。その後、1928 (昭和3)年、商工会議所法施行により「京都商工会議所」に変更した。京都商業会議所設立 (1891 (明治24)年) 以前は「会長」、以降は「会頭」。
※第16代会頭までの職名は退任時点

創立140周年記念事業特別委員会（順不同・敬称略）

委員長	堀場 厚	委員（記念式典担当）	面村 真一
副委員長（記念式典小委員長）	石原 義清	委員（記念式典担当）	平井 誠一
副委員長（記念事業小委員長）	内田 隆	委員（記念事業担当）	藤井 健志
副委員長（記念誌発行小委員長）	納屋 嘉人	委員（記念式典担当）	松井 雄
委員（記念事業担当）	石田 隆英	委員（記念事業担当）	村田 雅明
委員（記念誌担当）	今西 信隆	委員（記念誌担当）	柳本 依子
委員（記念誌担当）	太田 裕久	委員（記念事業担当）	葛城 万寿子
委員（記念式典担当）	小崎 学	委員（記念式典担当）	松下 真子
委員（記念誌担当）	鈴木 順也	委員（記念式典担当）	朝生 修弘
委員（記念誌・記念事業担当）	中西 真也	委員（企画・広報アドバイザー）	竹内 弘一
委員（記念事業担当）	中野 雄介		

あ と が き

2020年初頭から始まった新型コロナ禍により、京都経済もここ数年、停滞を余儀なくされました。特に観光業を中心に大きな影響を受けましたが、会員企業・関係各位のご協力により、商工会議所が一丸となって逆境に立ち向かってまいりました。

その甲斐あって140周年記念式典において、会員各社の創意工夫や若手起業家の新しい発想から生まれたビジネスなど、次代を担う産業の芽が確実に育っていることを確認できたことは大変うれしく、また心強く感じた次第です。

次の大きな節目となる150周年に向けた今後10年間は、「京都経済の再生と新たな成長」をテーマに、地域社会に信頼・必要とされる組織としてさらに成長することをめざしてまいります。

世界が激流の中にある今だからこそ、本記念誌は未来志向に基づいた誌面づくりに努めました。歴史と伝統に根差した京都ならではの未来を描くきっかけとなれば幸甚に存じます。

末筆になりましたが本誌編纂にあたり、ご協力賜りました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

京都商工会議所
創立140周年記念事業特別委員会 委員長
堀場 厚

京都商工会議所創立140周年記念事業の一環として、「しなやかに とともに いきる」をメインテーマに記念誌を編纂いたしました。

京都経済センターの完成や文化庁誘致活動など、大きな出来事が続いた創立130周年以降10年間の京商の歩みを記録しました。また、特別企画として、各界で活躍する方々による記念座談会およびコラムを収録するとともに、会議所運営の中核を担う副会頭、専務理事、部会長、女性会会長、青年部会長などによる「これからの10年に向けて」をテーマとすることをご寄稿を掲載することで、全体として、京都の未来を展望する内容となるよう心がけました。

本誌をご覧いただくことで、京都商工会議所が経済のみならず京都のまちの発展に果たした役割や、将来に向けた眼差しを感じていただけるものと存じます。

結びにあたり、本誌編纂にあたり、ご協力賜りました方々に心から感謝申し上げます。

京都商工会議所
創立140周年記念事業特別委員会 副委員長
記念誌発行小委員会 委員長
納屋 嘉人

京都商工会議所 創立140周年

「しなやかに ともに いきる」

発行日／2022年12月

発行／京都商工会議所

〒600-8565 京都市下京区四条通室町東入京都経済センター7F

TEL: 075-341-9740

編集／京都商工会議所 創立140周年記念事業特別委員会
記念誌発行小委員会

印刷／NISSHA 株式会社



I40th Anniversary
Kyoto Chamber of Commerce and Industry